

令和4年度本巢市教育委員会
事務事業の点検・評価結果報告書



令和5年8月
本巢市教育委員会

点検評価結果の概要

I. はじめに

1. 教育委員会事務事業の点検・評価制度の実施について

平成19年6月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、教育委員会の活動状況・会議の実施状況や所掌する事務の管理・執行状況について点検・評価を行う際には、学識経験者の知見の活用を図ることも規定されています。

本巣市教育委員会では、平成27年度に策定した「第1期本巣市教育基本計画（後期）」を目指す人間像を「自ら学び、求め、心豊かに自立する人間」と定め、園・学校、家庭、地域社会が互いに連携・協力して教育を推進し成果を上げてきました。しかし、幼児教育・学校教育・社会教育の施策や重点が別々に分けて設けられていたため、両者の関連性・連続性に欠けるという課題も残りました。

そこで「第2期本巣市教育振興基本計画（前期）」では、基本構造を大きく見直し、目指す人間像『ふるさとをルーツに、未来を切り拓き、たくましく生き抜く人間』を具現するために、幼児教育・学校教育・社会教育が共通の目標に向かって施策を実施していく構造となるよう改善を図りました。

教育を取り巻く社会の動向を踏まえ、令和2年度から5年間に重点的に取り組むべき施策を明らかにし、本市教育の一層の推進を図っています。

令和4年度の教育委員会事務事業の点検・評価は、この「第2期本巣市教育振興基本計画（前期）」に定める項目ごとに点検・評価することとし、今後の効果的な教育行政の推進及び市民への説明責任を果たすことを目的として、ここにその結果を報告いたします。

Ⅱ. 点検・評価の実施方法について

1. 評価の対象

教育委員会が令和4年度に実施した、会議・調査活動及び事務事業について点検・評価を実施する。

- ・ 教育委員会の活動状況、教育委員会会議の実施状況等
- ・ 本巣市教育振興基本計画の方針ごとの主要施策の執行状況、事務事業の執行状況

2. 評価の進め方

(1) 一次評価

教育委員会事務局において評価対象事業等の自己評価を実施する。

(2) 二次評価

一次評価を基に、評価委員（教育に関し学識経験を有する者等）により二次評価を実施する。

(3) 最終評価

教育委員会は、一次評価・二次評価の結果を踏まえ、最終評価を実施し報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表を行う。

3. 点検・評価の基準

点検・評価は、対象事業の必要性、効率性、有効性、達成度の視点から評価を行う。
また、下記の評定基準により総合的に評価を行う。

<総合評価>

次の4区分により達成度の評価を行いました。

評 定	内 容
A	順調に達成しているもの
B	おおむね順調に達成しているもの
C	達成見込みであるが課題があるもの
D	順調でないもの

※各施策中1項目でもB評価があれば、施策の評価はB評価としております。

Ⅲ. 評価結果の概要

1. 教育委員会の活動状況

令和4年度の教育委員会の活動状況の点検評価は、下記のようにになりました。

(1) 教育委員会の会議の活動状況	評価
①教育委員会の開催	A
②総合教育会議の開催	A
③点検・評価委員会の開催	A
(2) 調査活動の状況	
①学校訪問	A
②先進地視察	—
③市町村教育委員会連合会研究総会	A

2. 事務事業の執行状況

令和4年度の施策別の点検評価は、下記のようにになりました。

31施策105項目中、A評価が68項目、B評価35項目、実施なしが2項目でした。

方針1 統合された知・徳・体

・生きて働く学び	評価
施策(1) 確かで豊かな学びの育成 (6項目中の評価、A：4項目、B：2項目)	B
施策(2) 個性や能力を伸ばす教育の推進 (6項目中の評価、A：4項目、B：2項目)	B
施策(3) 「数学のまちづくり」の推進 (2項目中の評価、A：1項目、B：1項目)	B
施策(4) 英語教育の推進とグローバルな視野の醸成 (4項目中の評価、A：2項目、B：1項目、—：1項目)	B
施策(5) ICTを活用した情報教育の推進 (3項目中の評価、A：1項目、B：2項目)	B
施策(6) 指導者の資質向上 (4項目中の評価、A：1項目、B：3項目)	B

・豊かな心	評価
施策(7) キャリア教育の充実 (3項目中の評価、A：0項目、B：3項目)	B
施策(8) 地域ぐるみの道德教育の深化 (2項目中の評価、A：2項目、B：0項目)	A
施策(9) 人権教育の推進 (2項目中の評価、A：1項目、B：1項目)	B

施策(10) 心を動かす体験活動の充実 (5項目中の評価、A：4項目、B：1項目)	B
施策(11) 読書活動・図書館教育の充実 (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B

・ 健やかな体

評価

施策(12) 体力向上・健康増進を図る運動習慣 (6項目中の評価、A：5項目、B：1項目)	B
施策(13) 「ウォーキング・ランニングのまちづくり」の推進 (2項目中の評価、A：1項目、B：1項目)	B
施策(14) 質の高い学校給食提供・食育の推進 (3項目中の評価、A：1項目、B：2項目)	B
施策(15) 健康教育・命を守りきる教育の推進 (2項目中の評価、A：1項目、B：1項目)	B

方針2 安全・安心な園・学校、家庭、地域

評価

施策(16) 各園・学校や地域の特色を生かしたマネジメント (4項目中の評価、A：4項目、B：0項目)	A
施策(17) コミュニティ・スクールの発展 (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B
施策(18) 子供たちの成長を支える地域学校協働活動の推進 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(19) いじめ・問題行動の未然防止 (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B
施策(20) 教育相談・特別支援教育・インクルーシブ教育の充実 (4項目中の評価、A：4項目、B：0項目)	A
施策(21) 困難を抱える家庭への教育支援の充実（教育の機会均等の確保） (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B
施策(22) 家庭教育への支援 (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B
施策(23) 幼・小・中の一貫教育 (3項目中の評価、A：1項目、B：2項目)	B
施策(24) 防災教育・安全教育の充実 (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B
施策(25) 園・学校、社会教育施設・環境の整備 (5項目中の評価、A：4項目、B：1項目)	B
施策(26) 「チーム学校」の推進と教職員の勤務環境の向上 (4項目中の評価、A：4項目、B：0項目)	A

方針3 ふるさとへの愛着と誇り

	評価
施策(27) 「ふるさと本巣市」を学ぶ教育の推進 (3項目中の評価、A:1項目、B:2項目)	B
施策(28) 社会参画力の育成・ボランティア教育の推進 (2項目中の評価、A:2項目、B:0項目)	A
施策(29) 本巣市を担うリーダー育成の推進 (2項目中の評価、A:1項目、B:1項目)	B
施策(30) 青少年健全育成の充実 (3項目中の評価、A:1項目、B:1項目、-:1項目)	B
施策(31) 歴史・文化活動の推進 (4項目中の評価、A:3項目、B:1項目)	B

IV. 点検評価結果の内容について

(1) 教育委員会の活動状況

評価

①教育委員会会議の開催

A

教育委員会会議の開催状況については、会議を12回、議案35件の審議を厳正に行いました。また、委員会終了後には、委員からの情報提供や、事務局からの事務事業の進捗状況その他の報告に関し、委員と事務局との意見交換を活発に行いました。

②総合教育会議の開催

A

地方教育行政法の改正により、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り教育課題を共有するため、平成27年度から設置が義務化となり、開催しています。

会議では、「幼稚園の教育実践」、「本巣市の不登校の現状と本巣の学び舎」、「社会教育課の取組」について、市長等と意見交換を行いました。不登校の児童・生徒に対する支援体制（想談や支援の充実）についての報告は、事業の効果が十分伺えました。

③点検評価委員会

A

令和3年度に実施した教育委員会事業についての点検・評価結果を協議し、報告書をまとめました。

(2) 調査活動の状況

評価

① 学校訪問

A

調査活動の状況等については、弾正小学校、一色小学校、土貴野小学校、真正中学校、根尾学園、弾正幼稚園、真桑幼稚園、糸貫西幼稚園を視察し、園・学校の現状を把握した他、気づいた点について意見交換を実施しました。

② 先進地視察

新型コロナウイルスの感染症対策のため事業を控えました。

③ 市町村教育委員会連合会研究総会

県内教育委員会の実践する具体的活動も参考にしながら教育委員相互で交流ができました。

(3) 各施策における事務事業の執行状況

各施策 105 項目 346 事業中、A 評価 277 事業、B 評価 58 事業、実施なしが 11 事業で、約 80% が A 評価でした。

方針 1 統合された知・徳・体

・生きて働く学び

施策(1) 確かで豊かな学びの育成

評価

1) 幼児教育における「非認知能力」を高める工夫	A: 2 ・ B: 2	B
2) 教科の本質に根ざした授業改善	A: 3 ・ B: 0	A
3) 「教科専門指導員」の配置	A: 2 ・ B: 0	A
4) 思考力・判断力・表現力を身に付ける指導	A: 4 ・ B: 0	A
5) 個別最適化された学びを支える「本巣市型 G I G A スクール」	A: 3 ・ B: 1	B
6) 生涯にわたり学び続ける場の充実	A: 3 ・ B: 0	A

施策(2) 個性や能力を伸ばす教育の推進

評価

1) 自発的な遊びの充実	A: 1 ・ B: 1	B
2) 学校における個性伸長学習	A: 2 ・ B: 0	A
3) 「やってみたい」「おもしろい」を引き出す機会づくり	A: 4 ・ B: 0	A
4) 中学校部活動	A: 5 ・ B: 0	A
5) 各種展覧会・コンクールの実施	A: 0 ・ B: 2	B
6) 生涯にわたる個性の伸長	A: 2 ・ B: 0	A

施策(3) 「数学のまちづくり」の推進

評価

1) 園・学校における数学教育の推進	A: 1 ・ B: 3	B
2) 社会教育における数学教育の推進	A: 5 ・ B: 0	A

施策(4) 英語教育の推進とグローバルな視野の醸成

評価

1) 幼・小・中一貫した英語教育の推進	A: 4 ・ B: 0	A
2) A L T と J T E の配置	A: 2 ・ B: 2	B
3) 実践的な英語活用能力の育成	A: 3 ・ B: 0	A
4) 大きく視野を広げ、世界から本巣市を見つめ直す青少年派遣事業	—	—

施策(5) I C T を活用した情報教育の推進

評価

1) 情報活用能力の育成	A: 2 ・ B: 2	B
--------------	-------------	---

2) プログラミング教育の推進	A: 0 ・ B: 3	B
3) 情報モラル教育の推進	A: 3 ・ B: 0	A

施策(6) 指導者の資質向上

評価

1) キャリアプランに応じた教職員研修	A: 2 ・ B: 3	B
2) 本巣市学校教育研究会における授業改善研修	A: 1 ・ B: 1	B
3) 研究指定実践校の指定	A: 1 ・ B: 1	B
4) 社会教育委員やスポーツ指導者の研修	A: 2 ・ B: 0	A

・豊かな心

施策(7) キャリア教育の充実

評価

1) 幼稚園におけるキャリア教育	A: 0 ・ B: 2	B
2) 学校におけるキャリア教育	A: 6 ・ B: 1	B
3) 家庭や地域、社会を巻き込んだキャリア教育	A: 1 ・ B: 1	B

施策(8) 地域ぐるみの道德教育の深化

評価

1) 園・学校における道德教育	A: 4 ・ B: 0	A
2) 家庭・地域と連携した道德教育	A: 2 ・ B: 0	A

施策(9) 人権教育の推進

評価

1) 園・学校における人権教育	A: 5 ・ B: 0	A
2) 家庭や社会における人権教育	A: 3 ・ B: 2	B

施策(10) 心を動かす体験活動の充実

評価

1) 自分の五感で確かめ、命や平和について考える「広島平和研修」	A: 2 ・ B: 0	A
2) 仲間と共にやり遂げた達成感を味わう「プロジェクト・アドベンチャー(PA)」	A: 2 ・ B: 0	A
3) 生き方を考える中学校での講演会	A: 3 ・ B: 0	A
4) 感動体験としての「中学校音楽会」	A: 1 ・ B: 1	B
5) 心豊かで、安らぎとうるおいがあふれる芸術・文化を味わう文化ホール事業」	A: 3 ・ B: 0	A

施策(11) 読書活動・図書館教育の充実

評価

1) 本に親しみ読書を楽しむ学校図書館教育	A: 2 ・ B: 2	B
2) 子供の読書活動の推進計画	A: 5 ・ B: 0	A
3) 成人を対象とした読書活動の推進	A: 2 ・ B: 0	A

・健やかな体

施策(12) 体力向上・健康増進を図る運動習慣

評価

1)「強い心」を育むことを中核とした「生きる力を育むプロジェクト」の推進	A:3・B:3	B
2)体力や運動能力の向上	A:7・B:0	A
3)各種スポーツ団体の自主運営活動に向けた支援と団体間の連携	A:5・B:0	A
4)ライフステージに応じた健康づくりや生きがいづくりができる各種事業の設定とスポーツコミュニティづくりの推進	A:2・B:0	A
5)地域に貢献できるスポーツ指導者の発掘及び指導力向上のための研修及び活動の充実	A:2・B:0	A
6)総合型地域スポーツクラブの活動充実に向けた支援	A:1・B:0	A

施策(13) 「ウォーキング・ランニングのまちづくり」の推進

評価

1)体力や運動能力の向上を図るウォーキング・ランニングイベント	A:3・B:0	A
2)ウォーキング・ランニングの環境整備	A:1・B:3	B

施策(14) 質の高い学校給食提供・食育の推進

評価

1)質の高い学校給食の提供	A:3・B:1	B
2)園・学校における食育の推進	A:4・B:1	B
3)社会教育における食育の推進	A:1・B:0	A

施策(15) 健康教育・命を守りきる教育の推進

評価

1)保健安全教育を充実させるための体制の整備	A:3・B:1	B
2)各園・学校の保健安全教育の推進	A:3・B:0	A

方針2 安全・安心な園・学校、家庭、地域

・生きて働く学び

施策(16) 各園・学校や地域の特色を生かしたマネジメント

評価

1)各園・学校における「生きる力」の育成	A:3・B:0	A
2)義務教育学校「根尾学園（仮称）」の設立	A:2・B:0	A
3)児童生徒・保護者のニーズに応じた教育環境の整備	A:2・B:0	A
4)学校事務の共同実施	A:2・B:0	A

施策(17) コミュニティ・スクールの発展

評価

1)4つの本巢市型コミュニティ・スクールの設置	A:3・B:0	A
2)園・学校における学校支援推進委員会の活用	A:4・B:0	A
3)地域に開かれた園・学校運営	A:1・B:1	B

施策(18) 子供たちの成長を支える地域学校協働活動の推進

評価

1)地域の実態に即した「地域学校協働本部」の設置	A:4・B:0	A
2)公民館を生涯学習の拠点に位置付けた地域づくりの推進	A:2・B:0	A
3)ボランティアバンクによる人材の発掘と生涯学習活動の充実	A:4・B:0	A

施策(19) いじめ・問題行動の未然防止

評価

1) 園・学校におけるいじめの未然防止のための予防・開発的教育	A: 5 ・ B: 1	B
2) いじめ・問題行動の未然防止のための実態把握	A: 3 ・ B: 0	A
3) 関連機関や有識者との連携を図ったいじめの未然防止	A: 4 ・ B: 0	A

施策(20) 教育相談・特別支援教育・インクルーシブ教育の充実

評価

1) 教育相談の充実・外国人児童生徒への就学支援の充実	A: 5 ・ B: 0	A
2) 特別支援教育の充実	A: 4 ・ B: 0	A
3) インクルーシブ教育・ユニバーサルデザイン	A: 3 ・ B: 0	A
4) 不登校児童生徒への支援	A: 2 ・ B: 0	A

施策(21) 困難を抱える家庭への教育支援の充実（教育の機会均等の確保）

評価

1) 子育て家庭への様々な支援	A: 7 ・ B: 0	A
2) 小・中学校就学時の支援	A: 2 ・ B: 0	A
3) 留守家庭教室の充実	A: 1 ・ B: 2	B

施策(22) 家庭教育への支援

評価

1) 幼稚園における家庭教育	A: 3 ・ B: 1	B
2) 小・中学校における家庭教育	A: 4 ・ B: 0	A
3) P T A活動の推進	A: 2 ・ B: 0	A

施策(23) 幼・小・中の一貫教育

評価

1) 幼・小の滑らかな接続と連携	A: 3 ・ B: 3	B
2) 幼稚園教諭の人材確保・人材育成	A: 2 ・ B: 0	A
3) 小・中学校の円滑な接続	A: 2 ・ B: 1	B

施策(24) 防災教育・安全教育の充実

評価

1) 学校における防災教育・安全教育の充実	A: 3 ・ B: 0	A
2) 地域や家庭等と連携を図った防災教育・安全教育の充実	A: 5 ・ B: 0	A
3) 地域ぐるみの防災教育の充実	A: 1 ・ B: 2	B

施策(25) 園・学校、社会教育施設・環境の整備

評価

1) 園舎・校舎の施設建設・修繕	A: 2 ・ B: 0	A
2) 小・中学校体育館のエアコン設置	A: 1 ・ B: 1	B
3) 備品（学校管理備品・教材備品）や消耗品の整備・管理	A: 2 ・ B: 0	A
4) 安全な登下校のための「通学路点検」「見守りボランティア」	A: 3 ・ B: 0	A
5) 社会教育施設の整備	A: 2 ・ B: 0	A

施策(26) 「チーム学校」の推進と教職員の勤務環境の向上

評価

1) 教職員の適正な勤務時間と業務量の管理	A: 4 ・ B: 0	A
2) 業務の軽減と一元化を図る校務支援システム	A: 2 ・ B: 0	A
3) 中学校部活動における社会人指導者・休養日の設定	A: 2 ・ B: 0	A
4) 勤務時間を自己管理する働き方の徹底	A: 2 ・ B: 0	A

方針3 ふるさとへの愛着と誇り

施策(27) 「ふるさと本巣市」を学ぶ教育の推進

評価

1) 「ふるさと本巣市」について学びと発信	A: 3 ・ B: 1	B
2) 「ふるさと本巣市」の偉人の生き方の学び	A: 0 ・ B: 2	B
3) 「ふるさと本巣市」の文化遺産からの学び	A: 3 ・ B: 0	A

施策(28) 社会参画力の育成・ボランティア教育の推進

評価

1) 「MS J」「MS キッズ」活動の推進	A: 3 ・ B: 0	A
2) 地域行事へのボランティア参加	A: 3 ・ B: 0	A

施策(29) 本巣市を担うリーダー育成の推進

評価

1) 学校を中心としたリーダー育成	A: 2 ・ B: 0	A
2) 市が主体となったリーダー育成	A: 0 ・ B: 1	B

施策(30) 青少年健全育成の充実

評価

1) 青少年の健全育成に対する効果的な広報・啓発活動の推進	A: 2 ・ B: 2	B
2) 子供が行事等の運営に参画し、マナーや社会のルールを学ぶことができるような地域づくりの推進	A: 4 ・ B: 0	A
3) 海外に視野を広げる機会の設定と、青少年の豊かな国際感覚の育成	—	—

施策(31) 歴史・文化活動の推進

評価

1) 伝統文化の継承と継承者の育成	A: 2 ・ B: 0	A
2) 各保存会、文化協会、文化団体、サークル等の活動の支援	A: 3 ・ B: 0	A
3) 先人・偉人の調査・研究や歴史的文化資料の整備、保護・保存及び有効活用	A: 4 ・ B: 0	A
4) 文化的な学習機会の充実と語りべボランティア等、人材の育成、地域文化の伝承活動の推進	A: 4 ・ B: 1	B

V. 評価委員会からのご意見

教育委員会の活動状況及び事務事業の執行状況について、点検評価委員会において委員からのご意見を集約したので報告します。

1. 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の活動状況

① 教育委員会の開催

- ・コロナ禍における本巣市における教育の在り方について、教育委員会としてこの間の本市の教育の取り組み上の成果や課題について総括的な評価をしておく必要があるのではないだろうか。今後またこうした災禍に襲われた時のため、今回の災禍を生かしていきたい。
- ・教育委員会が打ち出している事業や課題として挙がっていることを、教育長さんを中心に各課が対応し、現場におろしていただいていることが末端の現場からも感じられます。

② 総合教育会議の開催

③ 点検・評価委員会

- ・今年の事です、あまりに項目が多いことに驚き、評価を評価するということに悩みました。1回目から2回目までの短期間にコメントするのに苦労しました。

(2) 調査活動の状況

① 学校訪問

- ・本市では、教育委員の皆様にも広く園や学校・学園を参観いただけるので、ありがたいです。
- ・学校経営方針を知っていただき、適切なご指導をいただくことができ、励みとなりました。また、子供のためにと考え、改善につながる機会となり、大変ありがたく思います。

② 先進地視察

③市町村教育委員会連合会研究総会

2. 事務事業の執行状況について

方針1 統合された知・徳・体

生きて働く学び

施策1 確かで豊かな学びの育成

1) 幼児教育における「非認知能力」を高める工夫

- ・幼・小の接続については、これまでも啓発が図られていますが、令和5年度からは、より明確な方針が打ち出されており、学校としても十分意識したいです。
- ・小学校でも、10の姿を先生方に伝えていますが、なかなか実感できない、浸透できないところです。
- ・幼児期からその子の持つ特性を見つけ伸ばすことができたらしめます。
- ・幼稚園では、目的が明確にされた「遊び」が実践されていると感じ、勉強になります。
- ・幼稚園にお伺いすると、時間を気にせず、夢中になって遊ぶ園児の姿があり、また、トラブルがあっても自分たちで解決できるように先生方が動いていらっしゃる姿もあります。
- ・「非認知能力」の育成のために人と関わらざるを得ない環境を設定し、その中で起こるトラブルを自分事として受け止め解決するよう見守っている現状があります。
- ・さまざまな個性や（保護者含めて）考え方のある中で、「群れて遊ぶ」ことは付随するトラブルを含め

て社会性など大切な学びの場となるので、広い視野でこれからも取組を期待したい。

- ・非認知能力を伸ばすための取り組み素晴らしいと思います。
- ・幼児期の「非認知能力」の育成は重要。竹馬・一輪車などの外に有効なものは導入し、必要な環境整備には力を尽くしてほしい。
- ・「非認知能力」の育成は小学校低学年においても重要。幼小連携の一環として意識しながら指導に当たりたい。
- ・幼児の段階から「生きる力」の基盤が養われていると感じます。その育ちを踏まえた小・中学校の教育でありたいです。
- ・廃材等をうまく活用した遊びの環境が整っていると感じています。
- ・砂場や遊具、築山などに加えて竹馬や一輪車など幼児が思い切り遊べる場を整えるのはとても大切であり、必要不可欠な要素。安全面に配慮は必要ですが、たくましい身体づくりのために積極的に取り組んでいただきたい。
- ・幼児期からその子の持つ特性を見つけ伸ばすことができたらと思います。

2) 教科の本質に根ざした授業改善

- ・他市町との連携は、たいへん良いと思います。教員どうしの交流も活発にできるとよいです。
- ・「本巣市版授業改善の手引き」の作成、全教職員への配布等、とても良いことと思う。小学校でももちろんですが、中学校は「教科の本質」を本当に大切にしなければなりません。その手引きがあることは、たいへんありがたいことです。
- ・メンターの先生方がまとめられた手引きは、若手教員にとって大変ありがたいものです。
- ・指導法の改善の中で何か大きく変わったことはありますか。教えるから学び合う授業がもっと必要になるのではないかな。
- ・特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価を適切に行えるよう活用したいです。
- ・上手にカリキュラムを活用して、教材研究を進めています。評価方法や評価規準等、大変参考になります。大変ありがたいです。

3) 「教科専門指導員」の配置

- ・成果・課題にある、「教員の授業力の向上」「子供の質的な学び」の具体例を紹介してほしい。(代表的なものでよい)
- ・指導の仕方を姿として示してくださる指導員の先生方は、若手教員に限らず目の前の手本であり、教師の指導力向上につながり、子供が楽しく学ぶことにもつながっています。
- ・実際に子供たちの学力、体力の向上が数値として証明されており、これは教科専門指導員の配置による効果と言える。特に本巣市では退職校長はじめ経験豊かで指導力のある指導員が配当されており、なにより子どもたちには幸せなことであり、若い担任にもよい学びの機会となっている。
- ・根尾学園では全学年で「教科担任制」を導入と書かれているが、ここでは高学年の教科担任制導入となっている。根尾学園のように、教科担任制の拡大は計画されているのか。
- ・専門指導員の配置は子供の質的な学び、学習意欲向上に重要。事情が許す限り今後もさらに充実してほしい。
- ・子供たちにとって、教科の本質に迫る質の高い授業となることが本当にありがたいです。
- ・今や小学校の高学年では教科担任制は当たり前といっているほどその教育的効果は明確。学校や教員側の事情にもよるが、できるだけ教科担任制を導入、継続していただきたい。
- ・小中教員間の交流はどの程度行われているのか。

4) 思考力・判断力・表現力を身に付ける指導

- ・9年間を見通した指導は、中1ギャップの解消にも生きます。今後は、どの生徒も安心して学習に臨めるよう配慮も行っていきたいです。

- ・学校としても、小中学校の接続、中学校区の小学校での指導が揃うことについて、さらに深めていきたいです。
- ・「話す」「聞く」は学習だけでなく人間関係づくりの基本となるので9年間を見通した指導体系を作っているというのはすばらしい。話す・聞くという順番でなく、「聞く」「聞ける」があって、「話す」「伝える」とは思うが。
- ・コミュニケーション力で最も基本的なことだと思います。大切に伸ばしてほしい。到達目標的なのはあるのか。
- ・思考力や理解力を向上させるうえで望ましい「ノート書き方や活用」について、子供たちの良いノートを互いに見ることは効果があると思う。先生たちの側でも、各学年段階での「望ましいノートの取り方」を研究課題として取り組み、指導していくことも合わせて取り組んでいきたい。
- ・大切な「生きる力」の一つに、発信力・コミュニケーション力があると考えます。ノートづくりとの関連を意識して指導に当たりたいです。
- ・タブレットが普及する中でも、書くことについて大事に考えています。子供にとってノート作りは自分の考えを整理すること、表現する力にもつながっています。タブレットでしかできないこと、ノートでしかできないこと、の見極めをしていきたいと思います。
- ・中学校の「総合的な学習の時間」については「生き方を考える」という点から、主張大会や防災学習等との関連を図りたいと考えています。
- ・確かに根尾学園の取組は素晴らしいと思いました。ただ、大規模校でも同じような形で取り組めるかは課題があります。根尾学園で取り組めたことを環境の異なる他校でどのように取り入れられるか工夫が要るところ。
- ・大変よいことだと思います。根尾学園での取り組みで個々が生き活きと取り組めた要因は課題設定でしょうか。
- ・小中の教育では「自主性の育成」が重要。「家庭学習の手引き」も、子ども自身が自学(家庭学習)を進めるうえで参考になる選択肢が豊富にあるようなものが望ましい。「家庭学習の手引き」も年々バージョンアップしていきたい。
- ・自主学習においては、子どもたちの関心・意欲や良さの伸長を図ることができるよう、「自ら取り組む姿・心」を適切に価値付けていきたいです。
- ・家庭学習については、保護者への啓発が大切だと考えています。「家庭学習の手引き」を使っての子供への指導と併せ、保護者にも丁寧働きかけています。
- ・必要な教科書だけを持って帰るためにも意図的な家庭学習の計画を立てられるということなので有意義な取組だと思います。

5) 個別最適化された学びを支える「本巢市型GIGAスクール」

- ・GIGAスクール構想では、一人一台の端末と高速快適なネットワーク環境の充実を求めている。快適さが得られない現環境を早急に解消できるよう市の課題として取り組んでいただきたい。
- ・学校によって異なると思いますが、学校のwi-fiが安定して使えるよう改善をお願いします。
- ・子供たちは日々進化するタブレットを上手に使って学びに生かしています。
- ・一斉学習では不可能であった、個の進度に合った学習に生かしています。
- ・このようなことができるようになってきたことに頼もしさを感じます。
- ・個々の進度や能力応じて学習できることは大変よいことだと思います。
- ・授業支援ツールの導入によって、目的を明確にした小集団交流ができ、生徒の議論する力や探究する力の育成につながっています。
- ・教員によってまだ生かし切れていないところもありますが、瞬時に共有して学びに結び付けることができ、ありがたいです。

- ・大変よい取り組みだと思います。またオープンA Iが進む中、その活用のあり方について今後進める必要はないか。今後VRを活用した授業も行われてくるようになるかも。
- ・タブレットの家庭学習での活用、大いに進めてほしい。
- ・特に、長期休業では、自分で復習していました。自学の一つとして活用しています。
- ・低学年児童のタブレット持ち帰りは、重くて負担。

6)生涯にわたり学び続ける場の充実

- ・「生涯にわたり学び続ける場の充実」方向を明確にされている。学校教育を終えた若い社会人から私のような高齢者まで「学び続ける」環境が整い、自らをキャリアアップしていく場が充実すれば、豊かな人生の構築につながっていく。それぞれのステップでどのような環境を整えることがキャリアアップにつながり、豊かな人生を送ることができるのか、一度再吟味・再検討していただき、それに即した場を設けていただけるとありがたい。公民館講座、書籍の充実が施策の柱になっていると思うが、若い社会人、中堅の社会人のキャリアアップに必要な施策についても一度ご検討していただきたい。高齢者や主婦向けの施策は充実しているが、20代～50代の成人層にも新たな学びを提供する環境を豊かにしていきたい。
- ・公民館講座に参加された方々が、得意を生かして、学校の外部講師になっていただくこともありかと思えます。
- ・（根尾に関して）定員割れぎりぎりの講座もありますが、参加者にとっては生きがい、やりがいを感じて参加されています。しかし、自分で運転するなり送ってもらうなりしないと公民館まで来れない状況があるのはやむを得ないことだと思います。
- ・「根尾文化研究会」という公民館講座に準じた会が数年前から発足、年間8回ほど活動してふるさとの文化や歴史、自然を学び直して（おもしろがって）います。とてもよい傾向かと思えます。
- ・講座の内容で変化はあったのか？
- ・本市の図書館の蔵書は充実していると感じています。「ほんの森」で地域の方々を見かけるのは、その表れだと思います。
- ・時代が流れていくように、蔵書数だけでなく、その時代に合った図書の充実にも目を向けていただけるとさらにありがたいです。
- ・新しい本、わくわくするような魅力的なコーナーなどがあるといいなと思いました。今どき、本を直接手に触れる機会が少なくなっている人が多い中で、行政の図書館の役割は逆に大きくなっている気がします。
- ・（根尾に関して）蔵書数や利用者は少ないですが、根尾独自の文化・歴史に関わる郷土資料が充実していて根尾だけでなく他県からも来場され、利用されています。また小さい子たちも絵本などをよく利用してくれています。
- ・人生の先輩であり、本市を切り拓いてこられた高齢者の方々が、安心して暮らせるよい機会と思えます。
- ・根尾では、「根尾文化研究会」が組織され、参加者はほとんど高齢者ですが、毎回興味深く参加しています。特に座学で終わるのでなく現地、現場へ行って、見たり聞いたりしていて、活発に活動しています。

施策2 個性や能力を伸ばす教育の推進

1)自発的な遊びの充実

- ・園児の姿から、「10の姿」をもとにした計画的かつ綿密な指導がなされていることが分かります。
- ・具体的な目標を設定することはとてもよいことだと思います。
- ・自発的な遊びの充実は、小学校1,2年生にも必要。幼小連携の一環として幼稚園での成果を小学

校側にも伝え、子供が連続して成長できるよう配慮したい。

- ・大学のコラボとも相まって、園児の体力、心が成長していると感じています。園児も、自分ができるようになったことを実感できています。教育の原点を学んでいます。
- ・遊びの充実には、よい実践がある園もあります。園同士で参観もしくは情報交流する機会があるといいと思います。
- ・身に付けさせたい力を「遊び」を通して楽しく取り組むことは幼児だけでなく小学校児童でも運動好きにするためにも大切な要素。そのための場の設定など工夫して取り組んでいただいているようです。

2) 学校における個性伸長学習

- ・「個性伸長科」「かがやき科」は教育課程上での扱いは「総合的な学習の時間」に該当するのか。
- ・根尾学園での学習成果を他の小中学校に生かしていく方向性は考えられているのか。
- ・総合的な学習の時間のモデルと捉えています。根尾学園の生徒たちの、主張大会や、各種の市長報告会での姿を拝見し、「かがやき科」の成果と感じています。
- ・少人数の根尾学園での成果を大規模校でどのように取り入れていけるかを工夫して、どの学校でも「自分の好きなこと、興味のあること」に向かって追究できる場や時間を確保していけるようにできるとよい。そのためにも学校サポーターのような外部人材も可能な限り活用できるとよい。
- ・教師が自分の得意を生かせることは、生徒指導上においても有益なことと考えます。
- ・コロナ前のように、専門性の高い地域の講師をお招きしながら、より子供たちが前のめりになって取り組めるようなクラブ活動にしていきたいです。
- ・子どものニーズと教師の得意分野が合致することは難しいと思うが、選択の幅を広げていけるようにしたい。これも学校サポーターが活用できるとよい。

3) 「やってみたい」「おもしろい」を引き出す機会づくり

- ・船来山古墳群マスコットキャラクターとF C岐阜のギフイーがコラボしたキャラクターを見かけました。継続的な取組によって、子どもたちはもちろんのこと、市民の方々にも「ふるさと本巢」への愛着が深まっていくと感じます。
- ・スポーツだけでなく、こうした地域の特性を生かした子供たちの学びの場があることに幸せを感じます。
- ・学校が、数学や理科が「わかる」から「わかって楽しい」と感じられる授業改善に取り組むきっかけともなっています。
- ・成果・課題欄で「小学生講座」と明記されているのは、真正公民館のみであるが、他地区では小中学生向けの講座はないのか。
- ・公民館講座に参加された方々が、得意を生かして、学校の外部講師になっていただくこともありかと思えます。
- ・学びたいと思って申し込んでの講座であり、学校では学べない内容や、学校教員とは違った講師陣、学級とは違う仲間という中で、子供のよさがさらに発揮できる場となると思います。
- ・根尾では、どの講座もリピーターが多く、楽しみにして参加されています。地域住民の興味・要望をどのように汲み上げ、見合う講師を探すかが課題です。

4) 中学校部活動

- ・部活動支援クラブは、生徒たちにとって、非常に意義のあるものとなっています。学校職員は、働き方改革とのバランスをとりながらも、当該クラブでの生徒たちの様子を見、積極的な生徒指導に生かす必要があります。
- ・教師の負担軽減のためにもこのような環境を整備することは望ましいと思います。
- ・平日は、仕事でご多忙であろう地域指導者の方々が、土日にご尽力いただけることが本当にありが

たいです。

- ・生徒のニーズに応えるだけの社会人指導者を確保することは難しいと思いますが、このような制度を進めていくことは大切だと思います。
- ・社会人指導者は足りているか？
- ・部活動で「拠点校方式」を導入して中学生の希望にこたえていこうとする方向性は大変良いと思う。他校へ行くときの「足の確保」についても生徒や保護者の負担にならないような方法はとられているのか。拠点校方式で部活動が容易にできる環境を整えていきたい。
- ・実際に合同チームによって救われた生徒たちが多数いることを考えたとき、本市の地域移行に係る取組が、いかに先進的であるかが分かります。
- ・根尾地区や外山地区ではありがたいが、移動、送迎などの課題をどうクリアするか課題です。
- ・市外からの受け入れは、ゲーム以外の問題もあるのではないかな？
- ・現状でどの程度の地域移行ができていくのか。
- ・全国に先駆けた本市の地域移行の取組は、他県・他市町の手本になると感じています。
- ・是非軌道に乗ってほしいと願います。
- ・休日のどちらかとは、いつのことですか？
- ・子どもにとって、自分の好きなスポーツ・やりたいスポーツに取り組めることが、その後の人生の大きな財産になると考えます。
- ・オーストラリアなどでは地域で受け皿ができています（種類は限られていますが）。日本ではまだまだこのような制度になるには時間がかかるかもしれませんが、少なくとも第一歩となっていると思います。
- ・活動の見える可をしてください。その他の団体にも影響が出るのではないかな。

5) 各種展覧会・コンクールの実施

- ・生成AIが台頭してくるこれからの世の中にあって、子どもが創意工夫をはたらかせながら、自分の手で作品をつくり上げることの意義を、学校現場は大切にしたいです。
- ・市で表彰していただけるということが児童にとってとても励みになります。ですから学校ではできるだけ多くの児童が認められるようにと考えています。
- ・このような場は参加した子ども、表彰された子どもには大きな励みにもなっているのでは是非継続していただきたい。

6) 生涯にわたる個性の伸長

- ・スポーツ協会や文化協会に対し、育成費・大会運営費・派遣費等を支援していることはとてもよいことであるが、それぞれの団体が行政の支援を受けてどのような成果をあげているのか、行政として把握しているのか。そうした成果も一部取り上げたい。
- ・少子高齢化が進む中では会員数の減少はやむを得ないとは思いますが、協会の加入、不加入に関わらず個人レベルでも運動、スポーツに親しむことは健康寿命を延ばすことでもあり、本巢市が標榜する「歩くまち、走るまち」などを通して健康なまちづくりを目指したい。
- ・文化協会についても会員数は減っていますが、生きがいに繋がり是非とも支援を継続していただきたい。
- ・まだ使い慣れていない団体（個人）もあるようだが、従前よりは便利なシステムだと思います。
- ・熱中症や災害時等緊急時において使用不可の時も端末でもわかるようにできないか。

施策3 「数学のまちづくり」の推進

1) 園・学校における数学教育の推進

- ・幼少の頃から、量や図形に親しむことは、たいへん有益なことと考えます。

- ・五感に訴える活動はよい。
- ・「15パズル」のことは耳にしていたましたが、実際に配付されていることを知り、本市の本気を感じ、刺激を受けました。
- ・「15パズル選手権」が楽しみです。開催されるときは、できるだけ早く学校に知らせていただきますと、子供たちも目標がもてます。
- ・算数・数学の美しさ・不思議さを体感できる施設が本市にあることは、子どもたちにとっても、教員にとっても、たいへん幸せなことです。「本物」に触れるからこそ味わえるものだと考えます。
- ・社会教育課の皆さんの開設の中、数学ワンダーランドを見学し、体験した児童は興味深く、目を輝かせていました。一人でもいいので面白さを感じ、数学に目覚める機会となればと感じました。
- ・数学ワンダーランドの存在はとてもよい。ただ、授業として利用する場合、移動手段や時間がネックとなる。学校で訪れたことがきっかけとなり、家族や友人、個人でさらに利用されていくことになれば素晴らしい。
- ・算数・数学の問題や課題を「自分事として捉える力」の育成にもつながることと考えます。
- ・数学科の先生や高専などの先生の英知を結集しての取組はまさに地域の教育力、協力の賜物と言えます。

2) 社会教育における数学教育の推進

- ・数楽校等は学校でも紹介していますが、沖縄派遣のように、来校いただいて紹介いただけると参加者がより増えると思います。
- ・計画準備が大変かと思いますが、教えられる側としてはもちろん教える側の地元の高校生、高専生の活躍の場ともなるし、進路選択のよい機会となると思います。
- ・算数・数学甲子園の問題を教員が考えることで、自身の専門教科への深い理解を生み出し、授業にも反映されることと考えます。
- ・小学校3～4年生のジュニアの部が位置付いていることが素晴らしいと思いました。保護者の送迎が必要なので、あきらめている児童にとっては、自宅受検での挑戦がありがたいです。
- ・このような企画は算数・数学好きの児童生徒の育成のよいきっかけとなり、とてもよいと思います。計画実行する側に負担がかかりすぎないようにお願いします。
- ・教育テレビで観ていた、あの「秋山先生」が本市に来ていただいていることは、子どもたちにとって自慢にもなることと思います。他市町に広げられていることも、とても素敵なことです。
- ・秋山仁氏の講演は大変分かりやすく体感できる内容（実験？）で大人も感動できました。準備計画も大変かと思いますが、とてもよい取組です。
- ・高木貞治出生地である本巢市の誇りを核にして、教育委員会が一体となって、秋山仁氏はじめ専門家、岐阜高専、教員などを巻き込み、市内のみならず市外の児童生徒を対象に「数学の楽しさ」「思考力・創造力」の伸長を目指し、様々な施策を実施し成果をあげているこの事業は、今や本市の文化性を高める重要な施策として発展してきていると思う。算数・数学の学力向上も大切ではあるが、あまりそうした些細なことにこだわらず、「数学の楽しさ」追究にこだわって発展させてほしい。
- ・いかにして算数数学の論理的な美しさ、楽しさを理解してもらえるか、秋山氏や中島氏から直接助言をいただけるのはありがたいと思います。
- ・STEAM教育が成果として具体的に現れていることは？例えば横断的な学びの内容は？
- ・数学ワンダーランドと高木貞治記念室を一体のものとしてPRすべきではないか。社会教育課のwebページも別々のものとなっていて、ワンダーランドの紹介の中に記念室の案内はないし、記念室の紹介の中にワンダーランドの紹介もない。もともとは高木貞治の業績をまちづくりに生かそうとする趣旨のものであり、一体のものとして紹介すべき。本巢市が数学に力を入れている理由を市民は

もとより他市町の人にもわかってもらえる。

- ・算数・数学の美しさ・不思議さを体感できる施設が本市にあることは、子どもたちにとっても、教員にとっても、たいへん幸せなことです。「本物」に触れるからこそ味わえるものだと思います。
- ・これらの教具はどれもビジュアルに体感できる素晴らしいものばかり。これらをモレラで体感できるのは素晴らしい。（移動設置が大変だったと思いますが。）数学ワンダーランドをPRするよい機会となったと思います。
- ・ワンダーランドの数学の教具が多くなり立派になってきたが少し手狭ではないか。

施策4 英語教育の推進とグローバルな視野の醸成

1) 幼・小・中一貫した英語教育の推進

- ・外国語特任指導講師、J T Eならびに英語教育推進教師の存在が、英語を専門としていない学級担任が英語に親しみ、自信をもって自学級の児童の指導に当たることができています。
- ・外国語教育について学校間での格差がないと実感しています。
- ・同じ歩みではあるが、学校間でずいぶん差がある。
- ・幼稚園での学びが小学校に生きています。
- ・今後ますます外国籍の児童生徒が増える可能性がある中、幼少の頃から異文化に親しむことは、共生社会の実現にも寄与されることと考えます。
- ・幼少から英語に親しんだことと、English Days in NEO への参加との相関が明らかになるとよいと思います。

2) A L TとJ T Eの配置

- ・A L Tと学校の関係は概ね良好ですが、健康面等にやや不安を抱えた方がいるように感じます。
- ・外国語特任指導講師、J T Eならびに英語教育推進教師の存在が、英語を専門としていない学級担任が英語に親しみ、自信をもって自学級の児童の指導に当たることができています。
- ・3人体制で行うことで、より外国語での表現活動の楽しさが増すとともに、子供一人一人に目が行き届くようになり、大変ありがたいです。
- ・担任との打ち合わせは大変なのですが、それぞれの役割があり、子供にとって楽しく分かりやすい時間となっています。
- ・A L Tのリーダーの方の存在が非常に大きい（ありがたい）と感じています。
- ・参加しているA L T、J T Eのスタッフが前向きな姿勢で計画、準備をされている。また根尾という自然、文化が分かりやすいところでの開催もとてもよいと思います。

3) 実践的な英語活用能力の育成

- ・A L Tによる校内掲示で、母国の文化に加え、A L Tの人柄も伝わりました。
- ・難しいことはできませんが、各学校それぞれができることを考え、英語に親しむ機会を意図的に作っています。A L Tが児童玄関前に季節に合った掲示物を作っています。
- ・A L Tの母国の文化などの紹介は国際理解にもつながるし、とてもよい取組だと思います。
- ・「English Days in NEO」の根尾での実施、とても効果的な施策である。
- ・オンラインという方法で、中学生参加の機会をいただきました。参集型でこそ味わえるものも味わわせたいです。
- ・根尾での体験を次に生かしていくプログラムの開発も期待したい。
- ・満足度100%は素晴らしい。是非これからも継続されることを期待します。
- ・英語検定試験でいうとどの程度の達成度を目指しているのか。

4) 大きく視野を広げ、世界から本巣市を見つめ直す青少年派遣事業

- ・もっと早くわかりやすい事業にしてください。見える可、青少年対青少年事業ではないと思われる。

施策5 ICTを活用した情報教育の推進

1) 情報活用能力の育成

- ・高速ネットワークの強靱化、ぜひ今年度中に早く改善してほしい。
- ・授業におけるICT機器の不調の原因として、①教員による事前の確認不足、②ネットワーク環境の不調が挙げられます。①は、学校が必ずやらねばならないこととして意識していきたいです。②の整備をお願いいたします。
- ・複数学級が皆で使うとなかなかつながりにくいのが現状です。
- ・SKY MENUは非常に便利な「文房具」でした。授業改善に役立てていきたいです。
- ・現在担任教師しかタブレットがありません。ですので、フリーや管理職はなかなかスキルアップできないのが実情です。
- ・日々進化していくICTです。先生方は大変です。それを支えていただける教育センターがあることが、現場の先生方にはありがたいことです。
- ・研修する先生も大変かと思いますが、子どもの学びの質の向上につながるなら頑張してほしい。
- ・例えば、算数科・数学科の図形領域の授業では、「同じ図をかいている人＝同じ考えの人」を視覚で把握しやすいので、目的を明確にした小集団交流に生かすことなどができます。
- ・このようなソフトを活用できる先生が増えていくことは心強いと思います。
- ・2年生広島研修の本集中と根尾中のように、行動を共にする学校間の事前学習にも活用できます。
- ・他地域とオンライン授業素晴らしいです。今後はVR活用も進むのでは？

2) プログラミング教育の推進

- ・理想を言うと、年に1度だけの講座に留まらず、継続して学べる環境ができればよいと思います。
- ・プログラミング教育を指導する先生の負担も大変かと思いますが、時代の要請として是非頑張ってください。
- ・プログラミング教育に堪能な教員が求められている。本市の教員研修の実態はどのようになっているか。
- ・目的を達成するための方法を、段階的に筋道立てて考える力の育成につながります。
- ・カリキュラムはできているのか。
- ・高専の先生による指導は、子どもにとっても小中の先生にもありがたい。

3) 情報モラル教育の推進

- ・具体的事例をもとに、ビルドアップ的に考えることが、「問題を自分事として捉える力」の育成につながります。
- ・コロナ、一人1タブレットという中で、同じ講師で、毎年継続して子供たちに話をしていただくなど、継続して子供たちに投げかけていくようになりました。
- ・情報モラルは社会的な問題なので具体例で指導をされるのはよい。
- ・子どもは、大人が想像する以上に、ICT機器の扱いに長けています。大人も積極的に操作したり、情報を入手したりすることで、その危険性に対する意識を高くもつ必要があると考えます。
- ・一番身近な保護者こそ情報モラルの手本であり指導者であるべきなので家庭教育学級でこのような講座を設けられるのは望ましい。
- ・保護者への指導にもっと心がけてほしい。
- ・家庭教育学級の開催方法の一つである「在宅型」とコラボができ、効果が上がったと考えます。
- ・保護者に考えていただく大切な機会ととらえています。
- ・できた資料のその後の対応はいかがか。ただ見るだけでは。

施策6 指導者の資質向上

1) キャリアプランに応じた教職員研修

- ・岐阜教育事務所が主催する各種研修との関連が、よく図られています。
- ・若手教員個々に課題意識がなければ実践研究もスタートしない。若手教員一人一人が「個人研究テーマ」を持つ必要がある。
- ・管理職とはちがった立場で指導・助言いただけることが、若手教員の励みになっています。
- ・経験の浅い教師に対して、教育センターから指導に来ていただけることは、本当にありがたいです。
- ・学年単学級が多い本市においては、学年主任に相談するという機会も少なく、指導力のあるセンター長、特任指導員による指導はありがたい。
- ・管理職や先輩教員が若手教員対象に、何が課題なのか、困っていることなど「自己課題」として計画的に研究していくように支援し、研究を累積していくような支援(アドバイス等)をすれば、実践研究として実を結ぶことになる。
- ・教員にとって、1日の学校生活が「教材研究」で終わり、「明日、子どもたちにこんなことを伝えたい」とわくわくできるような学校経営を行うことが、論文応募者増につながると考えます。
- ・「OFF-JT」が分からず調べました。評価項目に新しい用語があることは、広く一般には周知しづらいと感じますが、どうでしょうか。外部の研修会で学んだことを論文でまとめるとありますが、どうでしょうか。論文と研修とは切り離して取り組んでいらっしゃる方が多いのではないかと思います。評価項目自体の整合性を検討するとよいと思いました。
- ・もとより強制ではないが、自分の足跡を実践記録としてまとめる習慣が身に着くとよい。入賞するか否かでなく、なんらかの形でまとめることに意義があると思う。
- ・学校現場で子どもを見ながら、教職員大学で専門的な学びをすることで、「子どもの実態を捉えた実践」ができるリーダーの育成につながっていると考えます。
- ・令和5年度からは、各学校に「研修主事」が必置となるので、効果的な活用方法を考えたいです。
- ・必ずしもベテラン教員が若手教員を指導し、レベルアップを促しているとは限らず、若手教員の真摯な姿勢や最新の指導技術が、マンネリズムに陥りがちなベテランの刺激になっていることもある。しかし、経験豊かなベテランの指導が若手教員の手本や問題解決につながる人が多いので、このような交流が図られるのはよい。お互いが学びあえることこそ肝要。

2) 本巣市学校教育研究会における授業改善研修

- ・授業者を市教研の教科部会でも支えていこうとする風土が本市のよさと感じています。
- ・講演を聞いたり研修をしたりすることとても大切です。コロナの規制が外れ、実際の授業を見て学ぶ機会が増え、子供たちにとって楽しく分かる授業を目指していきたいです。
- ・研究授業の実践こそ先生たちが力をつける大切な機会なので少人数の部会では近隣市町とも連携するのはよいことだと思います。
- ・授業研究会の講師として派遣されることで、教科指導員自身の教科に対する深い理解や授業力の向上に大いにつながります。教科指導員には、「遠慮することなく、一緒に学ぶという姿勢で行けばよい」と後押しをしたいと思います。
- ・せっかくの教育指導員を各校の授業研究会に気楽に派遣されるのが望ましい。ただ、教科等指導員も母校や担当校での業務の合間に行ける余裕があればよい。

3) 研究指定実践校の指定

- ・ここでも、授業者を各校の管理職等で応援しようという風土があります。今後も大切にしたいことです。

4) 社会教育委員やスポーツ指導者の研修

- ・コーチ養成講習会の参加者が多くなるよう、スポーツ少年団と連携し、呼びかけてほしい。

施策7 キャリア教育の充実

1) 幼稚園におけるキャリア教育

- ・良さを認め合うためにも、伝え合う力をつけるためにも大切な取組だと思います。
- ・社会性を培うためにも、当番活動や準備、片付けなどをしっかりできるように働きかけるのは大切だと思います。

2) 学校におけるキャリア教育

- ・朝の会や帰りの会が、単なる連絡事項の会で終わらないように工夫する必要があります。
- ・小学校では発達段階を考えながらも目標をもち振り返り、次への意欲とつなげることができるように、取り組んでいます。
- ・良さを認め合うためにも、伝え合う力をつけるためにも大切な取組だと思います。
- ・「キャリア・パスポート」が子どもたちの拠り所となるようにしたいです。
- ・小学校では6年間を見通し、活用しています。また、自分の伸びを実感しながら伸びを実感できる一つとして、毎年行う体力テストの記録も残してキャリアパスポートが身近なものになるようにしています。
- ・自己の特性能力を見つけるとともに弱点も認識できればと思います。
- ・大半の中学生が、高校、大学と進んで仕事に就いていく。それゆえ、前途にどのような職種があるのか、希望の職に就くためにどのような高校・大学等に進むとベストなのか等についても指導されると思うが、そうした中で、職場体験、「生き方講演会」等、生き方、勤労意欲を高めていく上に必要な多様な指導がなされていて評価できる。高校・大学・その先の就職についても設計図を描くこともできるよう、高校や大学訪問(どのような学びがあるのか、その先にどうつながるのか)も、中学生の早い時期に企画することも意味があるように思う。
- ・地元の職場に、中学生を進んで受け入れてくださる風土があることが、たいへんありがたいです。
- ・多感な時期だからこそ、人生の先輩のいろいろな考えに触れ、考えを広げたり深めたりすることができるようにしたいです。
- ・地元企業等の協力とそのための調整も必要ですが「働く現場」を知るためには大切な機会なので是非設定していただきたい。
- ・とてもよい取組だと思っています。農業や林業など本巣市特有の産業に関わっている人の話もあるとよいと思います。
- ・今後も継続したい。
- ・新型コロナの第5類移行が考えられるようになって、令和5年度に向けて職場訪問の計画が進みつつあります。
- ・職場体験や講演など起業に関する情報を早い時期から学べることは、有意義なことです。
- ・中1・2が中3の思いを聞くこと、逆に中3が後輩に願いを託すこの取組は、不易のものとして残していく必要があると考えています。
- ・夢や具体的な進路を明確に持てない生徒も多いと思いますが、それでも下学年に語ろうとすることで、それなりに生き方を振り返り、進路について考えるきっかけになっていると思います。
- ・進路指導が、進学指導や就職指導で終わらないよう、「自己実現」の視点をもって行うことが必要です。
- ・目まぐるしく変わる社会情勢の中で、具体的な進路を決めていくのは大変困難な時代ですが、例えばこんな職業に就きたい、という願いに対して、こんな進路(学校)に行くといい、という助言ができるように引出を多くもつことは大切。

3) 家庭や地域、社会を巻き込んだキャリア教育

- ・「話そう・語ろう・わが家の約束」や「1家庭1ボランティア」を有効に活用しています。
- ・小学校では夏季休業日の一つのきっかけとして、子供が家庭において自分の役割を自覚し任される喜びを感じつつ、家族の一員として自己有用感を得られるようにしています。
- ・子どもを「お客扱い」しないで、役割分担を与える（あるいは一緒に考えて決める）ことは、社会人になっていくためには当たり前のこと。特に掃除や食事の準備片付けなど家にいるからこそできる仕事を体験できるとよいです。特に食事の用意で調理体験は自己有用感につながると期待されます。
- ・地域行事の企画者の一員として参加することは地域社会人としての意識向上や技能習得に役立つ。地域行事は地域によって企画も運営方法も異なるため、学校側が地域行事企画責任者と相談し、どのようなかたちで中(小)学生を参加させるか明確にすることが、子供たちの活動をより主体的にし地域社会人としての資質を身に付けていく。
- ・令和5年度の中3にとっては、過年度の先輩の姿を見ずに、令和5年度の「ふれあい会議」に臨むことになるため、進行の仕方等、教える部分が増えることは致し方ないと考えます。
- ・学校ではコロナの中でも地域とのつながりをもとうと、できる範囲で地域の人々とかかわりがあるような活動を仕組んできました。
- ・中学生、学園高等部では生徒は非常時、災害時などでは、学校に避難してくる地域住民に対しては支援する側としての活躍が期待される時代です。（ジュニア防災リーダーのように）そのような意識付けと実際の訓練も必要かと思います。

施策8 地域ぐるみの道德教育の深化

1) 園・学校における道德教育

- ・中学生ともなると、各内容項目の模範的な答えは分かっています。「頭では分かっているけど」から「真に考える」道德への授業改善が必要であると強く感じています。
- ・学校の実態に合わせて、教育活動全体で道德教育が充実できるように取り組んでいます。
- ・子どもを9年間（12年間）を見通して育てるという視点からも、校区で道德教育について考えることに意義があると考えます。
- ・各校（区）の重点項目を、教員が日常から意識して日々の指導に当たっていきたいです。
- ・中学校区ごとの各校道德教育推進教師が重点項目について確認して、進めています。
- ・家庭や地域との連携については、ふるさと教育週間の他、学校だよりでの継続的な発信が考えられます。
- ・地域活動が再開し始め、保護者が学校を訪れる機会も増えてきて、学校ではできるところから共通理解が深まるように連携を図ってきました。

2) 家庭・地域と連携した道德教育

- ・とても大切な取組。是非今後も継続していただきたい。ただ、過度に学校や担当者に負担をかけないように。
- ・コロナ禍で(?)ボランティア活動、地域を含めた活動が非常に悪い。

施策9 人権教育の推進

1) 園・学校における人権教育

- ・新型コロナの下でも、できることに取り組むことに意義があると考えます。
- ・園児の元気な挨拶、中学生の登校途中の挨拶、挨拶運動で小学校の校門で小学生と一緒に挨拶をする姿から、地域の方や保護者にも力を借りながら、幼小中が共通実践として取り組むことができ

いると感じています。

- ・市内中学校では、生徒会や有志による挨拶運動が伝統的に行われています。中学校の門の前だけでなく定期的に隣接する小学校へも行って、挨拶運動をしているのは素晴らしいと思います。
- ・「人権宣言」の文言が誤解されないか。一般的にはフランス革命の人権宣言や世界人権宣言などを想起するが…。本巢市児童生徒向けのものであれば、何か区別できるような名称であると誤解されない。「本巢市民の人権宣言」とか。
- ・「ひびきあい活動」自体は十分定着しています。形骸化することは考えられませんが、学年の発達段階に応じ、真に子どもたちの心にはたらきかけられる活動でありたいです。
- ・学校では、毎年継続して、かつ年間を通して取り組んでいます。
- ・L G B T s や S D G s 、人権課題等、世の中の動きに敏感になれる学校でありたいです。
- ・「多様性」を認め合うことが必要だと子供に関わる大人の認識が大切だと考えています。
- ・正しい理解を促すために、教科担任間の情報共有も大切であると考えます。
- ・偏見を食い止めるのは正しい知識と人を思いやる気持ちだけです。先生の情熱あるご指導に期待します。

2) 家庭や社会における人権教育

- ・中学生ともなれば、世の中の事象を「これでよいか？」と見ることができる意識を育てたいです。
- ・多くの人に聴いていただきたい話題でした。こうした問題に直面した当事者の話は、自分事として考えるよい機会だと思いました。
- ・知らぬ間に加害者、被害者にならないようにするためにもこのような啓発活動は大切かと思います。
- ・できるだけ多くの市民の参加できることを願います。
- ・地域の保護者等にも参加してほしい。委員のみでは大変むだです。
- ・よい取組だと思います。
- ・学校からの働きかけだけでなく P T A ともきちんと共通理解を図ることで、本巢市全体で実践できると考えます。
- ・人権感覚は幼少期から大人や周りの人の言動から大きく左右されがちです。間違った親の見方考え方を正す学習する機会持てることを願います。

施策 10 心を動かす体験活動の充実

1) 自分の五感で確かめ、命や平和について考える「広島平和研修」

- ・広島での平和学習、今後も継続していきたい。
- ・歴史や公民の授業との連携、戦争の現実(ウクライナ戦争)などに関連させ、深い学びに結実させていきたい。
- ・「中学生だからこそ学ぶ」という市の方針と援助をありがたく思っています。各校では、本市の「非核平和都市宣言」とのリンクもできてきていると考えます。
- ・ほんの森で開催される小中学生の「平和学習展」に寄せられた広島研修記録や読書感想文等に、心を打たれます。各校や地域に広く読まれるとよいと思います。
- ・平和学習を観念的に終わらせないようにするためにも現地で学ぶことは本当に重要なことだと思います。
- ・G 7 広島で首脳による記念館の見学があったが意義ある広島研修の継続を願う。

2) 仲間と共にやり遂げた達成感を味わう「プロジェクト・アドベンチャー(PA)」

- ・学級づくりへの効果が大きいです。学級(学年)経営構想に位置付けられるとよいと思います。
- ・R 4 年度が最後となりそうです。一つの目標に向かって、何度も仲間と知恵を出し合い考える活動は、価値ある活動であったので、そういう場がなくなるのがとても残念です。

- ・プロジェクトアドベンチャーは本当に素晴らしい活動だと思いますが、施設が閉鎖されたため、別の形で行うことになるのでしょうか。
- ・学級づくりへの効果が大きいです。学級（学年）経営構想に位置付けられるとよいと思います。

3) 生き方を考える中学校での講演会

- ・3中学校での講演、いずれも魅力的な講師で、3中学校の全生徒に聞かせてやりたい。
- ・録画を視聴、ZOOM等による同時視聴などあるが、著作権などの問題もあり費用が掛かるのであれば、それを踏まえた契約は難しいのか。
- ・学校側で開催することが容易ではないこれらの講演会が、しかも3年サイクルで行われることで、中学校の全生徒がまんべんなく学べ、ありがたいです。
- ・このような貴重な話を聞いたことは子どもの心に残っていくと思います。本集中、糸貫中、真正中それぞれの貴重な講演を他の学校、学園でもビデオなどで共有できるとよいと思います。

4) 感動体験としての「中学校音楽会」

- ・新型コロナだからできないではなく、子どものために何ができるかを考え行動することは、学校経営への励みにもなりました。

5) 心豊かで、安らぎとうるおいがあふれる芸術・文化を味わう文化ホール事業

- ・多くの事業内容を市民に認知してもらい、多くの参加を望む。
- ・多くの文化財があり、個別の課題が出てくるので毎年文化財審議会で検討されるべきものと思います。文化活動には今後も支援をお願いしたい。
- ・園長・校長会時に、イベントへの参加児童生徒を一覧で示していただけるので、価値付けにも役立てることができます。

施策 11 読書活動・図書館教育の充実

1) 本に親しみ読書を楽しむ学校図書館教育

- ・質の高い図書の購入、図書室の環境整備、読書タイムの設定やボランティアによる読み聞かせ、電算システム等による図書管理、読書指導等々、とてもしっかりと教育活動がなされている。
- ・こうした取り組みによって、児童生徒の読書の質と量がどのように高まってきているのか、ここで少し触れたらどうか。
- ・朝の読書は、生徒の心の安定にもなっています。
- ・読書離れが叫ばれる昨今、手に取ってみたいくなるような選書、配架、ポップといった図書館に関わる方々の努力が感じられます。
- ・図書司書、補助員の方々の創意工夫がありがたいです。
- ・読み聞かせによって、自分でも「読んでみよう」という気持ちになる子供たちがいます。とてもありがたいです。
- ・読み聞かせボランティアの方たちの活動はありがたいと思います。
- ・学校ではとても助かっています。
- ・とても便利なシステムだと思います。

2) 子供の読書活動の推進計画

- ・子どもたちを入園前から大切にしたい本市の願いを強く感じます。
- ・選書は難しいです。読書の機会を作っていってほしいと素晴らしいと思います。
- ・こちらの講座も、おなじみになりました。継続して取り組むことのよさを学んでいます。
- ・ジュニア防災リーダーなどと同じく、児童生徒にこのような役割の場を設けることはとてもよいことだと思います。キャリア教育にもつながります。
- ・「読書通帳」制度の導入、子どもたちの読書意欲を高めていくうえで効果的であると思う。公立図

書館とか、県立図書館や他市町の図書館なども加わっているのか。

- ・小学校でしんせいほんの森を見学する際、持っていない児童全員に発行していただきました。通帳がきっかけで、保護者も含め子供たちが図書館に足を運ぶ機会も増えたと感じていました。
- ・手間はかかるかもしれませんが、読書記録が残るというのも励みになってよいと思います。

3) 成人を対象とした読書活動の推進

- ・手間のいる作業だと思いますが、よい取組だと思います。
- ・書籍数、展示コーナー、イベント等やや手狭になりつつあるのではないかな。

健やかな体

施策 12 体力向上・健康増進を図る運動習慣

1) 「強い心」を育むことを中核とした「生きる力を育むプロジェクト」の推進

- ・「子どもの心と体を元気に」という市の方針が体现されていると感じています。
- ・幼児の時に先進的な運動プログラムを体験できることは恵まれていると思います。ありがたいことです。
- ・経験則が理論で裏付けられ、だれもが実践できるよう形にされたことは大変よいことだと思います。
- ・令和2年度の頃からの「投」に、「走」が加わり、子どもの総合的な体力の向上が期待されます。
- ・市内小学校では「足が速くなる魔法のダンス」を取り入れ、どの学校でも子供たちが楽しんで体を動かし、結果として走力が全体にレベルアップしました。
- ・走る能力は、運動能力の中でも基盤となる力。是非継続されることを願います。
- ・かつて「投」が運動会プログラムに位置付けられたように、継続的な取組による効果が大きいです。
- ・体育科の学習や、日頃の運動の成果の発表の場として運動会の種目を見直してきました。
- ・新型コロナによる子どもの体力低下が、報道等で取り沙汰される中、本市の取組は、他市町・他県の手本になると思います。
- ・本巣幼稚園では、園内保健会やミニ懇談会で体力測定の結果を県内・全国等と比較して紹介しました。日々の運動遊びの成果として一端を紹介できていることは成果です。本巣市の取組は岐阜新聞でも紹介されていました。
- ・今までの取組の成果が数値として証明されたことは大変すばらしい。このことが子どもたちの体力向上、生きる力の向上につながるという意味で大いに評価したい。

2) 体力や運動能力の向上

- ・本市の小中学生の体力テスト結果は県全体、国と比較してどの程度のレベルにあるか。
- ・施策がどう生かされているか、明らかであれば教えてほしい。
- ・各校の課題となる点については、体育専門指導員と改善策を練り、取り組んでいます。
- ・各学校でも、こだわりをもって運動能力の向上に意識していただけるとありがたい。
- ・体育の免許を所有していない教員にとって、一番知りたいのは「指導のコツ」と思います。体育専門指導員の先生の存在が、たいへんありがたいです。
- ・学校でのＡＣＰの取り入れについては、さらに職員研修を重ね、定着できるようにしていきます。
- ・経験豊かな体育専門指導員の配置は、子どもたちにも、また担任の先生たちにとっても幸せなことだと思います。
- ・授業の体育科本質にかかわる点（運動量の確保、技能習得など）で、授業改善の提案をいただき、取り組んでいます。
- ・体の具合に関わらず、どの生徒も安心して参加できる種目の工夫や開発が、きわめて重要であると考えます。
- ・今まで長年にわたり吟味されてきた種目でしょうが、常に見直し、より工夫された種目で運動能力

の向上を図ることはよいことだと思います。

- ・中学校では、体育大会等で「チャレンジスポーツ in ぎふ」にも参加できる種目を入れる試みがなされています。
- ・特に、冬季に力を入れ、運動量の確保と学級づくりに役立てました。
- ・適度な競争意識をもつことは切磋琢磨の機会としてよいと思います。ただ熱くなりすぎないように。
- ・教科体育の時間が限られた中、中休みに意図的に運動遊びを仕組むことは大切だと思います。
- ・糸貫川プールを活用しての水泳教室。本巣市の子どもにとって水泳に対する興味・関心、技能を伸ばす上にとってもよい体験になると思う。
- ・「伸ばせる力は伸ばす」取組があつてよいと思います。
- ・トップアスリートの出前講座は人気があるのですが、本物の姿を実際に見せていただき学ぶ機会を作りたいです。
- ・このような講師に来ていただけることはありがたいことです。

3) 各種スポーツ団体の自主運営活動に向けた支援と団体間の連携

- ・人口減少、少子高齢化の中では会員数の減少はやむを得ない。そんな中でも健康寿命の延長にもつながる高齢者の活躍の支援を今後も継続していただきたい。
- ・卒団式では子供たちの誇らしげな姿があり、こうした場を設けてくださることに感謝です。
- ・団員数が減っているのは残念ですがケーブルテレビでもそれぞれの団体がうまく紹介されています。指導者の方たちも熱心に指導していただき、ありがたいです。
- ・このような用具の貸し出しなどで環境を整えていくことはとてもよいことだと思います。

4) ライフステージに応じた健康づくりや生きがいづくりができる各種事業の設定とスポーツコミュニティづくりの推進

- ・幼稚園の「魔法のダンス」が、小学校の運動会種目に反映され、やがてウォーキングやランニングイベントにつながるとしたら、何と素敵なことかと考えます。長期を見据えた取組が期待されます。
- ・「ウォーキング, ランニングの街、本巣」という看板が定着してきて、イベントだけでなくコースなども充実してきていると思います。歩く、走るは生きる力の基礎なので是非これらの整備継続をお願いします。またイベントは大きく盛り上がりますが、ハードウェアとして安全に歩けるコースの整備、充実が図れるとイベントとしてだけでなく、個人が自由に利用し習慣化できるようになるといいです。

5) 地域に貢献できるスポーツ指導者の発掘及び指導力向上のための研修及び活動の充実

- ・部活動支援クラブの地域指導者が研修を受けられることで、指導者の方々がさらに安心して指導ができ、それが生徒に還元されるので、効果の大きい事業と考えます。
- ・部活指導者・育成者の皆さんは公私ともに忙しいとは思いますがこのような研修をされていることに頭が下がります。
- ・広報本巣やCC ネットさんもよく取材し、広めてくれていてありがたいです。

6) 総合型地域スポーツクラブの活動充実に向けた支援

施策 13 「ウォーキング・ランニングのまちづくり」の推進

1) 体力や運動能力の向上を図るウォーキング・ランニングイベント

- ・60 km コースが無くなったのは残念ですが、やむを得ない状況です。本巣市単独の事業としても 30 km ウォーキングはなかなかの大会です。楽しみにしている市民も多いと思います。
- ・「MOTOSU-FREE10」は、かなりの知名度になっていると思われます。個人の感想ですが、モレラに近づくにつれて増えてくるオレンジTシャツを目にしたり、その方々（見知らぬ方々）と手を振り合ったりすると、一体感に似た喜びを感じます。

- ・本巢市らしい独自のイベントだと思います。モレラや金氏の協力のおかげでこのような企画が成り立つと思います。会場の規模などによってあまりに大人数でも運営上大変かと思いますが、かなり定着しつつある企画だと思います。
- ・コースの変更や樽見鉄道とのコラボなど、常に改善を試みられる姿勢に刺激を受けます。
- ・うすずみ温泉が閉鎖中の今は、このような企画は樽見鉄道にとってもありがたい企画だと思います。実行にはいろいろ課題がありますが、かつて根尾村時代には上大須ダム一周のランニング大会もありました。現地までの集合に課題がありますが、本巢の自然を満喫するにはお手頃のコースだと思います。また、根尾キャンプパーク周辺を拠点として和井谷の林道、作業道を利用したトレランコースも可能性があります。
- ・金さんに会えるのが楽しみという方もいるのではないのでしょうか。
- ・金氏のような実力者がアドバイザーとして本巢に関わっていただけることは大変ありがたいことです。

2) ウォーキング・ランニングの環境整備

- ・皆が楽しみながら歩く姿が、モレラにあふれると素敵です。
- ・この企画の実践者は少ないかもしれませんが、アイデアとしては素晴らしいと思います。
- ・いずれ船来山も古墳という文化財だけでなく貴重な里山としてウォーキングの場として利用されていくことを期待したい。
- ・知りませんでした。ウォーキング人口は多いです。積極的にPR活動を行うべきです。
- ・プレゼントもよいが、百回達成、二百回達成などの人を顕彰（実名でなく、ハンドルネームでも可）し、掲示しておけるコーナーを設けると励みになるかもしれません。
- ・認知度が少ないのではないか。
- ・イベントだけでなく、このようなハードウェア面で環境を充実していくことこそ「歩く街づくり」の目指す姿だと思います。交通安全面の配慮は必要ですが、文化財を廻るなどコースを工夫すると思います。
- ・担当課、関係者のご尽力に頭が下がります。

施策 14 質の高い学校給食提供・食育の推進

1) 質の高い学校給食の提供

- ・学校給食アドバイザーさんの「学校給食に妥協なし」の姿勢に頭が下がります。栄養教諭さん、学校栄養職員さん、給食調理員さんが力を合わせて作られる給食に感謝しています。
- ・本巢市の給食は本当においしいです。メニューに偏りがなく、全国、世界の料理を子供たちに食べやすく提供していただけることもとても魅力的です。
- ・限られた予算内で、バランスのとれたおいしい給食が提供されていると感謝しています。家庭でまともに食事をとれていない子供もいる中で学校給食の存在は大きいと思います。
- ・医食同源的な教育を大切にしたい。
- ・学校の昼の放送で「ふるさと食材の日」「もとまる給食の日」と聞くと、食欲が増す気がします。子どもたちも、喜んで食べています。
- ・地産地消を生かしつつ、保護者の負担を減らした取組です。
- ・地産地消は一時的流行ではなく、食の安全面や地元農家、農協の健全な経営のためにも是非継続していただきたい。もちろん最大の課題はコストだとは思いますが、安心安全な食のためには是非。
- ・食物アレルギーについては、鶏卵除去食の実施はもちろんのこと、「料理別使用材料一覧表」に代表的なアレルゲンや、「原材料配合一覧表」に7品目・21品目が明記されており、学校での確認にたいへん役立っています。

- ・また、アレルギーに関する学校からの質問（例えば、魚醤や魚介エキスに含まれるアレルギー）にも迅速に対応いただけて、とてもありがたいです。
- ・代替の食事を持参する子供が増えてきました。その中で、除去食を提供していただけることは大変助かります。除去食も出汁がきいて美味です。
- ・アレルギーをもつ子どもが増える中、それぞれの子に対応した献立やアナフィラキシーショックの対策など、給食を供給したり現場でともに過ごす先生たちの配慮には大変なものがあると思いますが、よくやってくださっていると思います。
- ・本巣市学校給食センターの取組（安全・安心、手作り、おいしさ等）を、学校の教職員にも広めたいです。
- ・PTAで見学された保護者の意識が変わりました。こうした機会は保護者にとっても大切だと考えます。

2) 園・学校における食育の推進

- ・新型コロナの第5類移行にともなって、学級担任も積極的に食育に係る話をしたいものです。学校給食センターの取組、食材の旬や栄養・特産地、野菜の切り方など、話題はどれだけでもあります。
- ・定期的に学校で食育に関する発信をしていただけることがありがたいです。トマトレシピコンクールなど子供たちの食への関心も高まりました。生産者の顔が見えると、抵抗のあった食材も難なく食べられるのは小さな子供たちだけではありませんでした。
- ・毎日、確実に行われることで、市民のみなさんが学校給食について知ることにつながるとよいです。
- ・教育長さんの「食事作りは、論理的な思考力の育成にもなる」という話に感銘を受けました。
- ・小学校では給食センターの栄養士さんをお迎えして食育マイスター委嘱式を例年行っています。
- ・たくましく生きる力の一つが自分で調理できること、是非、こんな機会を大切にしていきたい。
- ・多くの機会を作って下さりありがとうございます。

3) 社会教育における食育の推進

施策 15 健康教育・命を守りきる教育の推進

1) 保健安全教育を充実させるための体制の整備

- ・自分の体の様子を言葉では表現しにくい園児の子たちが、安全・安心に生活できることに大きくつながります。
- ・専任の養護教諭の存在が、他の教員も安全面で安心して子供たちに対応できる存在となっているとお聞きしました。
- ・幼児園では養護教諭部会が各園と連携し、性教育に取り組んでいます。幼児期から正しい知識を得ることが大切で、先進園の視察もして広めているという実績があります。
- ・生命の尊さ、不思議さ等最近の生命科学の発展が早く感じている。性教育のあり方も幼児期から計画的に進めることが重要ではないか。
- ・学校医の先生から助言をいただけることで、学校は新たな視点を学ぶことができています。
- ・校医さんの話を直接お聞きできる機会であるので、保護者代表のPTA役員の方にもできるだけ参加していただきたいと考えています。
- ・感染症による学級閉鎖の判断をする際、客観的に見てアドバイスをいただけることがありがたいです。
- ・covid-19の蔓延で、毎日気の休まる間のない中、よく努力されたと思います。今まだ蔓延は起きているし、新たな感染症なども起こると思いますが、今回のことでその対応、対策が経験として生かされることを願っています。

2) 各園・学校の保健安全教育の推進

- ・初任者等の養護教諭の「1年目・一人職」という不安が軽減され、ありがたいです。
- ・子どもたちには「自助・共助」の意識を高め、学校職員は大川小の裁判結果も踏まえ「地域の災害の可能性と最適な避難」への意識を高めたいです。
- ・小学校でのノーランドセルの取組は子供たちが自分の命など考えて行動できる機会となっている。
- ・防災リーダーとなる教師が位置付いたことで、訓練だけでなく日常での指導や取組に繋がってきた。
- ・幼稚園では命を守る訓練を毎月1回以上行っています。保育所監査の指導内容でもあります。コロナ禍でも消防署の方にお越しいただき指導・助言をいただくことができました。幼児期でも「自分の命は自分で守る」ことを目指しています。
- ・年々さまざまなリスクに対応、対策を練らねばならない状況ですが、災害の多い日本社会を生きる中では欠かせない訓練、地域の防災士などの協力を得てこれからも取り組んでいただきたい。
- ・今後は、マスクの着用が任意となってきますが、3年間マスクをしてきた子どもたちには、外すことへの抵抗感が大きく残っています。気温上昇が著しい現代にあって、自分でメリハリを付けて着脱できる指導をしたいです。
- ・衛生面への意識が定着してきた。コロナ対策が緩和されても、こうした子供の意識を大事にしていきたい。

方針2 安全・安心な園・学校、家庭、地域

施策16 各園・学校や地域の特色を生かしたマネジメント

1) 各園・学校における「生きる力」の育成

- ・これだけの支援をいただいているので、学校はカリキュラムマネジメントのもと、学校経営構想のさらなる改善や充実に生かしていきたいです。
- ・未来を生き抜く子供たちの育成のために、伝統文化の継承から情報モラル教育まで様々な活動を通して学ぶことができるように生きる力の補助金を使っています。ありがたいです。
- ・本市では以前から中学校区単位で「学校関係者評価委員会」が行われ、9（12）年間を見通した学校経営を行う基盤が整っています。
- ・目標を設定して学校評価を実施し学校運営協議会等でのご意見をもとに、学校運営を見直しています。
- ・数年前から取り入れていただいた授業内容一覧表がありがたいです。もちろん学校は、紙面に表れなくとも、子どもに力を付ける授業を行っていきます。
- ・定期的な訪問で、学校経営について立ち止まり今後の方向について考える機会となっています。子供たちに力を付けるために、子供たちにとって居場所のある学校とするために、学校教育課からの指導を生かしています。

2) 義務教育学校「根尾学園（仮称）」の設立

- ・「かがやき科」「ふるさと科」は、どういう位置づけか。4領域のどれに該当するのか。
- ・「全学年教科担任制」では、1、2年生に対してどのような形で教科担任制を取り入れているのか。他校への導入は考えているのか。
- ・根尾学園だからこそできる教育活動への数々の挑戦的な取り組み、期待したい。
- ・その一方、少人数故の課題についても、アイデアを出し合い克服していきたい。例えば、平野部の小中学校との交流(対面交流、遠距離通信を介しての交流など)
- ・根尾学園の「かがやき科」をモデルに、総合的な学習の時間の工夫を考えたいです。
- ・根尾学園のかがやき科、ふるさと科の創設は、人口減少の著しい根尾にあっては差し迫った課題から設定されており、ふるさとへの愛着と誇りを高めるためにもタイムリーなものだと思います。少

人数だからこそ可能な指導支援体制も組むことができます。これは根尾だけの問題でなく他地域でも程度の差こそ起こっている現実として「ふるさと学習」の意義について見直したい。

- ・根尾学園ならではの課題と特色を生かした取組の成果が表れています。特に「ふるさとの集い」では根尾踊り保存会のような団体の参加と協力によって、数少ない根尾の子と保護者を支えてくださっていることを感じます。踊りの大きな輪がその象徴です。

3) 児童生徒・保護者のニーズに応じた教育環境の整備

- ・良い施策だと思う。転校は途中からでも、あるいは複数回できるのか。
- ・市内には校区外通学の児童生徒が何人ほどいるのか。
- ・このシステムは有効に活用されていると考えます。現在は部活動の関係で中学校を選択する生徒もいると思われますが、今後は部活動地域移行との兼ね合いが出てくるかもしれません。
- ・受け入れる側の過度な負担が心配ですが、柔軟に対応しているとのこと。ありがたいことです。

4) 学校事務の共同実施

- ・学校運営支援室はどこに設置するのか、各学校ごとの事務にどうかかわっていくのか、新たな人員は必要になるのか。
- ・本市では、早い段階で学校運営支援室が設置されたと記憶しています。一人職である事務職員が、当該運営支援室、同一校種間、小中間という3つの連携先をもつことができ、円滑な業務遂行につながっています。
- ・事務職員の方が連携を強化されて、各学校での個々の職務を複数の目で確認されており、業務の精神的な負担も軽減されていると感じます。
- ・複雑多様化する中で事務職の方の負担軽減につながることはよいと思います。
- ・一校での判断が難しい事務手続も、共同実施協議会のおかげで、同一步調をとりながら業務を遂行できていると考えます。

施策 17 コミュニティ・スクールの発展

1) 4つの本巣市型コミュニティ・スクールの設置

- ・幼小中合同のコミュニティー・スクールのメリットは12年間一貫した教育が出来ることだが、一方で個々の学校種の課題には応えにくいというデメリットも考えられる。こうした課題にどのように対応しているのか。
- ・かつて9年間を見通していた学校関係者評価委員会がもととなって、幼稚園を含めた学校運営協議会が発足したことで、12年間を見通して取り組むことができるようになりました。
- ・小学校には地元の公立幼稚園から入学してくる児童がほとんどです。中学校区の学校が一体となることはとても大切です。
- ・このような**連携の場をもつことはよいことだと思います**。ただ提案資料が盛りだくさんになっており、作成する側も説明される側も負担が大きいので、端的に要点を絞ってA4一枚ぐらいで説明をお願いしたい。その方がその後の論点が絞りやすい。
- ・地域の声が入ることは、学校経営にとって有益なことです。保護者・地域・学校の三者が、**地域の子どもを真ん中に置いて、何が出来るかを考え行動できるコミスクでありたいです**。
- ・様々な立場から学校を見守り応援していただけることがとても心強いです。
- ・園、学校、学園側からも地域からも悩みごとや気になっていることなどをさらけ出せる場として機能するとよいと思います。園、学校、学園が意見を承る、評価を受ける、という立場でなく、地域への要望なども対等に出せるとよい。ともに課題解決のためにどうするか一緒に悩む場がよいと思います。
- ・学校は、子どもたちの学校であると同時に、地域の学校でもあります。地域で、どんな若者に育

てたいかを共有することが肝要と考えます。

- ・子供の発達段階を踏まえながらも、一貫した教育を行うことができます。

2) 園・学校における学校支援推進委員会の活用

- ・既存の組織を生かしたコミスクの組織になっており、各委員会の取組が円滑に行われていると感じます。
- ・いろいろな形で多くの方が見守りをしてくださることがとてもありがたいです。
- ・見守り隊の方たちの意見など、学校の外側での子供の様子を聞けるのはよいことだし、実際見守り隊の方たちの活動はありがたいと思います。
- ・社会教育課主管の「子供の学びサポート事業」とどのような連携をとっているか。
- ・多くの方が子供たちの教育にかかわってくださりありがたいです。
- ・学校内の先生たちだけでなく、学校外の大人から直接話を聞いたり指導を受ける機会は貴重な体験として継続していただきたい。
- ・ラジオ体操やお祭り、イベントなどで自治会長や社会教育推進、体育推進員の方たちと関わっていくことは貴重な体験になると思います。

3) 地域に開かれた園・学校運営

- ・学校ホームページの他、学校だよりを地域の回覧文書に入れていただくなど、それぞれの方法で、学校の情報発信に努めています。
- ・コロナ禍でも見守り隊の方と定期的に情報交流の場を設けてきました。

施策 18 子供たちの成長を支える地域学校協働活動の推進

1) 地域の実態に即した「地域学校協働本部」の設置

- ・「地域学校協働本部」はどこに置くのか、「学校運営協議会」との連携をどう図るのか、他県で事例はあるのか。
- ・地域学校協働本部の主たる業務は。
- ・運動や工作など、活動にチャレンジできる場があり、おもに留守家庭教室に帰る子供たちが参加しています。地元地域の方がスタッフであることも心強いです。
- ・ボランティアスタッフの協力は大変ありがたいと思います。
- ・本来は地域の方と一緒に参加してもらったはず。今は各学校のスタッフのみ3人である。
- ・とても良い施策。週に一度とのことだが、回数を増やしていく予定はあるのか。
- ・どんどん公民館を利用していきたい。
- ・公民館で学習支援が実際行われたのか？

2) 公民館を生涯学習の拠点に位置付けた地域づくりの推進

- ・「公民館を生涯学習の拠点とする」考えには賛成。但し、公民館の名称はやや古い感じも。「生涯学習センター」と名称変更してもよいのでは。
- ・受講生の数(168人、121人…)は、目標値から見て多いのか少ないのか不明。公民館ごとに利用状況を吟味・検討し、生涯学習の拠点を目指すうえで十分なのか、不足しているのか、検討しておられると思うが、わかる範囲内で知らせてほしい。
- ・公民館講座に参加された方々が、得意を生かして、学校の外部講師になっていただくこともありかと思えます。
- ・生涯学習の場として、公民館講座をもっと活用して欲しい。根尾においては自力で公民館に行けることが必要だし、夜間は鹿との衝突や冬期の凍結などの課題もあるが、希望者がある限り、講座を継続していただきたい。地域住民の希望をどのように集約するのか、またそれに応えうる講師の確保が課題。(公民館の担当として)

3) ボランティアバンクによる人材の発掘と生涯学習活動の充実

- ・コーディネーターに相談すると紹介していただけることが大変ありがたいです。
- ・このような事業はありがたいことだと思います。「学力向上」という表現はまだ生きていますか？「学校支援」に変わりましたか？
- ・学力向上では直截的でドライな感じがしますが。
- ・子どもたちにとっては学校の授業外で体験できる貴重な学び（遊び）の場となっています。ボランティアスタッフの方の協力には頭が下がります。
- ・地域の若い方々が、ふるさとに関わる事業に参加されることは、意義深いことと考えます。
- ・子どもを巻き込んでのこれらの取組は、とてもよいと思います。キャリア教育の一環にもなるし、ふるさとの文化を誇りに思う気持ちにもつながると思います。
- ・中学生にとっても、「ながら見守りボランティア」の方々の存在は心強いものです。中学生の気になる姿に対し、直接声をかけていただける方もあり、ありがたいです。
- ・このような地道な取り組みこそ大切だと思います。

施策 19 いじめ・問題行動の未然防止

1) 園・学校におけるいじめの未然防止のための予防・開発的教育

- ・学校は今後も、フローチャートを含め、「生きてはたらく」危機管理マニュアルの更新に努めています。
- ・定期的に職員で確認をして、子供の命を守ることに取り組んでいます。
- ・突発的、衝動的に飛び降りなどに走る子どもを守り切ることは難しい。最後の手段として、校舎の下には植え込みなど設置して、致命的な状況を少しでも減らす。あるいは窓枠に格子をはめて転落事故を防ぐなどハード面の整備が必要。
- ・学校は、「5つの約束」を折に触れ、子どもたちに伝えていきます。また、困ったときの相談窓口を周知していきます。
- ・年度初め、学期始め等に校長が子供に必ず話し、発達段階に応じて担任やその他教師が伝えて、いじめから守り抜くことを発信しています。また、小さなことでもすぐに動ける学校職員であるように確認しています。
- ・足を引っ張る子を見逃さず指導する、という項目の実践が一番難しいように思えます。校長先生や生徒指導、担任の先生からきつと具体例を上げて指導していただいていると思います。徹底した指導ができたということは素晴らしい。
- ・困ったときに相談できる頼りになる「大人」の存在を知るプログラムとはどのようなものか。
- ・「SOSの出し方」においては、スクールカウンセラーの先生が、学年の発達段階に応じた指導・助言をしてくださいました。また、いじめアンケート等は、実施したその日のうちに目を通し、早期発見に努めています。
- ・スクールカウンセラーや教育相談コーディネーターが中心となって全校体制で進めています。
- ・子どもを褒めること一つをとっても、その子をよく見ていなければ、その子の心に届く褒めはできません。「足で稼ぐ」ことを大切にしたいです。
- ・全教職員が全児童生徒を見守るという意識で取り組んでいます。
- ・教職員の共通理解、共通認識、共同行動は言うは易く行は難し。是非、チームワークを発揮していただきたい。担任は責任感やプライドなどでつい抱え込んでしまいやすいと思います。
- ・あらゆる機会で、たくさんの目で見守っていこうとする仕組みはとてもよいと思います。
- ・子どもの作品を見ることで、学校職員も子どもの感じ方・考え方が分かります。

2) いじめ・問題行動の未然防止のための実態把握

- ・アンケートを見る際、「はい」から「いいえ」に○を打ちかえていないか、その逆はないかなど、細心の注意を払って見る必要があります。
- ・長期休業明けにも実施したり、必要な時には随時行うことで、児童生徒の様子を掴むようにしています。
- ・悩みを把握するための自己申告は有効な手立ての一つだと思います。
- ・「鬼ごっこでいつも鬼役になっていないか」「子どもどうしの呼称は対等か」など、人権感覚の高揚にもつながる「子どもを見る視点」を共有することが大切です。
- ・学校ではアンケートは担任からまず管理職にわたるようにして、問題については即動くことを確認しています。
- ・複数で確認というのは言葉以上に困難だとは思いますが、きめ細かな対応でしか未然に防げないと思います。
- ・些細なことでも連絡・報告をするようにしています。学校教育課の先生方に、学校の対応について、いつでも相談でき、大変心強くありがたいです。

3) 関連機関や有識者との連携を図ったいじめの未然防止

- ・生徒指導には「教育の部分」と「法の部分」がありますが、「法の部分」で専門的な助言がいただけるのでありがたいです。
- ・電話で相談できることが、学校での対応に関して大変心強く思っています。
- ・スクールロイヤーの存在は学校や職員にとって大きな拠り所となっていると思います。
- ・スクールロイヤーの活動事例はいかが。
- ・広域的なネットワークで子どもを見守ることは学校だけでフォローできない部分をカバーできるのでありがたいと思います。
- ・それだけの実績があったということは、スクールロイヤー設置の効果があったと評価できます。

施策 20 教育相談・特別支援教育・インクルーシブ教育の充実

1) 教育相談の充実・外国人児童生徒への就学支援の充実

- ・「傾聴の姿勢」や「相談先の引き出し」などについて、継続的に学べることがありがたいです。
- ・近年より複雑化する教育相談内容にも対応するためにも、各学校に在籍する教育相談員の研修をしていただくことは大切です。
- ・各校の教育相談員とさらに総括指導員という二重の体制が設けられていることで教育相談に対する全体の資質向上が図られているというのは頼もしいと思います。
- ・教育相談員の存在によって、救われた子どもがたくさんいます。時間的なものも含めたさらなる充実に望みます。
- ・スクールソーシャルワーカーの方によって、家庭環境における課題がより明確になります。支援体制の確立は、ありがたいことです。
- ・この調査によって、目には見えにくい子どもの現在の状況が分かりやすくなり、教育相談や支援に生かすことができている。
- ・Q Uを生かしながら一人一人の心に寄り添い学級経営を進めることができている。
- ・教員は英語は多少使えても、中国語は容易でないことがほとんどなので、3名の方の配置がありがたいです。今後は、ポルトガル語の方もいてくださるとよいです。
- ・日本語の分からなかった児童が、支援員のサポートのおかげで仲間や学級に打ち解け、日本語を覚えながら学校生活を楽しく送ることができています。
- ・今後もこのような外国籍の子どもが増えると思います。このような支援体制はありがたいです。

2) 特別支援教育の充実

- ・非常勤教育講師の存在は、その子の心の安定にもつながっています。学級担任・教科担任は、非常勤教育講師の方と連携をよく図り、その子をよりよく導きたいです。
- ・特別支援学級、通常学級ともに、特別な支援が必要な児童が増え、非常勤教育講師の存在がありがたいです。
- ・手厚い体制になっていると思います。
- ・子ども一人一人の状況に応じた支援の在り方を一緒に考えていただけて、また、具体的な助言をいただけて、ありがたかったです。
- ・途切れのない支援のために、幼小中の特別支援コーディネーターの連携はとても大切。
- ・個別の教育支援計画等の書式の統一や確実な引き継ぎが、保護者の心的な負担（例：学年が上がるたびに、わが子の特性を担当に一から話さなければならないなど）の軽減になります。

3) インクルーシブ教育・ユニバーサルデザイン

- ・授業者には、板書等の環境に加え、発問等においても、どの子も分かりやすいことを意識するように求めています。
- ・特に、学校から子どもが書いたメッセージを送る際は、子どもの自主性を大切にしながらも、その内容には敏感になる必要があります。
- ・直接交流はできず、レターなどで交流をしました。
- ・見て分かりやすいリーフレットだと感じています。市民のみなさんに広く知られるとよいです。

4) 不登校児童生徒への支援

- ・「たんぽぽ」と「本巢の学び舎」の両方が効果を上げています。子どもの状況に応じて積極的に活用したいです。
- ・ひきこもり状態だった子供が一人でも通室できたということは、この支援体制が生きたということだと思います。
- ・学び舎で心を安定して再び登校できる子などいます。一人一人が上手に利用して学校に足が向くようになるように先生方も対応してくださりありがたいです。対象児について学校と連携も図れています。
- ・学校復帰ができた生徒が数名いたということは大きな成果だと思います。

施策 21 困難を抱える家庭への教育支援の充実（教育の機会均等の確保）

1) 子育て家庭への様々な支援

- ・子どもの「安心した登校」につながるありがたい施策です。
- ・月額1万円の補助はとても良い施策。11人が補助を受けているとのことだが、それでも高校進学をあきらめざるを得ない生徒はいないか。
- ・中学生にとって、夢や志の実現につながるありがたい施策です。
- ・とりわけ本巢中学校区は南北に広いので、生徒の安全な登校につながっています。
- ・根尾地域ではこの制度は本当にありがたいです。
- ・切れ目のない支援の一つとして、大きな役割を果たしていると考えます。
- ・子育て支援センターでは、感染対策を十分して、楽しめる講座を適宜進めてくださり、コロナ禍でも立ち寄れる居場所提供に努めていました。保護者にはありがたいことだと思います。

2) 小・中学校就学時の支援

- ・ランドセルの贈呈は、保護者の負担軽減の上でも、子どもにとって鞆の軽量化の上でも、とてもよいことと考えます。
- ・ランドセルが高額化し、交通安全のためのヘルメットがいただけるこの制度は素晴らしいと思います。

す。

- ・子どもの「安心した登校」につながるありがたい施策です。
- ・貧困家庭が増加する中、この制度もありがたい。

3) 留守家庭教室の充実

- ・保護者にとって大変ありがたいことです。
- ・今や共働きの世帯は非常に多く、利用される家庭が多いことが分かります。
- ・預かる側にとっては延長は苦しいと思いますが、預けなければならない事情のある家庭にとってはありがたいと思います。

施策 22 家庭教育への支援

1) 幼稚園における家庭教育

- ・幼児にとって「家族と一緒に、ごはんを食べる時間・遊ぶ時間・過ごす時間」が、その後の人格形成に大きな影響を与えることを考えると、とても重要な取組と思います。
- ・一緒に食事をする、できる、ということがいかに大切なことかを啓発しつづけることは大切なことだと思います。
- ・一緒に遊ぶ体験が少ない親子にとってはよい機会だと思います。

2) 小・中学校における家庭教育

- ・近年の熱中症対策にも関わって、「睡眠時間の確保」と「朝食の確実な摂取」を呼びかけています。
- ・県からのお知らせ等も保護者に伝えています。
- ・家庭でのインターネットやSNSの適切な使用について、学校が積極的に関わらざるを得ない現状があります。
- ・各PTAがどんな状況でも今できることを考えて取り組むことができました。

3) PTA活動の推進

- ・あいさつ活動においては、PTAが青少年育成市民会議や民生委員さんによるあいさつ活動に加わるなど、相乗効果が見られます。
- ・挨拶運動が定着してきました。
- ・子どもだけでなく保護者自身もITCについて十分理解しているとはいえないことがあると思います。こういう機会にともに学び、実践できるとよいです。今年（R5年度）から夏休みのプール開放がなくなるので、一日の日課についてよりよい過ごし方を見直す必要が出てくると思います。

施策 23 幼・小・中の一貫教育

1) 幼・小の滑らかな接続と連携

- ・小中学校の教員が幼稚園を参観することで、子ども理解や教育の原点を学ぶ機会となっています。
- ・年間を通して、幼小交流を実施しています。園児の様子、活動の様子、また、入学後の様子など交流することで、子供に寄り添えるようにしています。
- ・幼小接続の必要性が求められる今日にあって、本市の取組は、画期的であるとともに、小中接続の具現に大きく生きていると考えます。
- ・小1ギャップを少しでも埋める試みになっていると思います。
- ・小中学校の教員が幼稚園を参観することで、子ども理解や教育の原点を学ぶ機会となっています。
- ・百聞は一見に如かずの幼稚園体験研修はとても有意義です。
- ・接続委員会の設置に大きな期待を感じています。
- ・幼小連携はよいことですが、そのために新たな委員会の設置や、研究授業参加のために現場を空けることによる補充体制の必要など新たな負担を生み出さないよう配慮が必要。

- ・新型コロナの第5類移行により、より活発な交流ができるとよいです。

2) 幼稚園教諭の人材確保・人材育成

- ・幼稚園のより充実した園経営と、様々な個へのより適切な支援に資すると考えます。本市ほど幼小の連携がしやすいところはなかなかないので、そこに魅力を感じてもらえるとよいです。
- ・実習生にも現場にもよいことだと思います。

3) 小・中学校の円滑な接続

- ・幼小接続のように、小中接続に励んでいきたいです。
- ・小1の様子を年長児が参観する、小6が中学校生活を体験することを再開できました。
- ・新型コロナの第5類移行を受け、何がどこまでできるか再吟味をしたいです。
- ・「一日入学」は不安の軽減だけでなく自覚も促せるし、小中、幼小学校間での共通理解の場にもなっているので大事なイベントだと思います。

施策 24 防災教育・安全教育の充実

1) 学校における防災教育・安全教育の充実

- ・熱中症対策や雷対策、川遊びへの対策などが考えられます。妥協することなく取り組んでいきます。
- ・各学校における防災教育が計画的に行えるように整えることができました。
- ・弾道ミサイル発射等への対応については、園では地震と同じようにダンゴムシのポーズをとることを指導しています。市で流れるJアラートの試験放送を毎回利用しています。
- ・マナー化しやすい訓練ですが、昨今の事故、災害などのリスクについて、常に備えることは必要。工夫を凝らして継続していただきたい。
- ・マスクの着脱、学習用具の持ち帰り等、感染症対策と熱中症対策の中で、子どもがよりよい対応を選択できる力を育てていく必要があります。
- ・Covid-19はまだ収束していないし、インフルエンザなどの感染は毎年のように襲って来ます。Covid-19の教訓を忘れず衛生面の望ましい行動をこれからも継続したい。
- ・命を守る訓練では地震・火事が想定されることが多いですが、本市は山・川・用水も多く、土砂災害や水害も強く意識しなくてはなりません。防災教育の充実と、ジュニア防災リーダーの育成・活用を考えたいです。
- ・学校では子供たちが自分たちで身を守る、命を守ることができるように適宜指導を入れています。
- ・増水時に小さな水路でも流され命をなくしている事例などを具体的に説明し、実際の通学路でそのような危険があるところについて見直したい。
- ・KYTの児童への指導はいかがなものか。

2) 地域や家庭等と連携を図った防災教育・安全教育の充実

- ・見守り隊の方々には、中学生も安心をいただいています。本当にありがたいこと、十分ねぎらいたい。
- ・自転車による飛び出しなどの事故は後を絶たない。特に友達と連なっているときに注意力が散漫になるので、個人としての技能指導の他にこのようなリスクについても指導されるとよい。
- ・道路交通法の改正もあり、よい機会と考えます。子どもが自らヘルメットを正しく着用し、自ら自転車の安全点検をできるようにしたいです。
- ・緊急メール配信システムは即時性に優れています。緊急時の情報提供は必ず行いますが、内容によっては学校が情報を配信し過ぎると、主体的に判断する力を鈍らせる可能性もあると考えます。バランスを大切にしたいです。

- ・警察署や交番の方には、常に子どもたちを見守っていただいているので、日頃から情報共有とお礼をしていきたいです。

3) 地域ぐるみの防災教育の充実

- ・避難所生活で大きな不安材料になるのが新型コロナですが、マニュアルをいち早く作成していただいたことで、いざという時に備えることができました。
- ・避難所運営に関して、子供たちは被災者であり、保護される側ですが、中学生ぐらいでは、むしろジュニア防災リーダーがあるように、運営側の立場で学校に避難してくるであろう高齢者や幼い子を支援する側としてもその役割が位置づけられるとよい。
- ・自然災害の状況が変わってきているので、見直すことは大切だと考えます。
- ・実際の写真や動画とともに講演していただいたことで、自分事として考える機会となりました。
- ・体験された人、消防士などのように日頃現場経験のある人から直接話が聞けるということは貴重な体験だと思います。

施策 25 園・学校、社会教育施設・環境の整備

1) 園舎・校舎の施設建設・修繕

- ・子どもたちに「学校の建物は安全」と話しています。よろしく願いいたします。

2) 小・中学校体育館のエアコン設置

- ・体育館のエアコン設置が確実に進められているので、たいへんありがたいです。中体連の大会も安全に実施することができています。
- ・頼もしい施策だと思います。停電も想定されるのでどう電力をバックアップできるか、ソーラー発電などでも自前でできるだけ調達はできるのでしょうか

3) 備品（学校管理備品・教材備品）や消耗品の整備・管理

- ・学校は、予算の有効活用のためにも、簡易な故障は「まず自分たちで修繕してみる」ことが必要と考えています。

4) 安全な登下校のための「通学路点検」「見守りボランティア」

- ・合同点検の度に、横断歩道や信号機の設置は容易ではないことが分かります。道路状況の変化を踏まえた柔軟な対応を考えていきたいです。
- ・三課、および北方署による連携が生きて働くためにも、園、学校、保護者、地域の要望を精査して、より安全な通学路になるようこれからも危機意識をもって取り組んでいただきたい。
- ・通学路の安全については万全を期してほしい。現状で安全でも1年後には危険な状況になることもある。見回りを密にして対策等講じてほしい。
- ・マップをもとに子供たちが通学路の安全や子供110番の家を確認できるようにしています。
- ・夏休みに、学校からも子供の言葉で綴ったお礼の手紙をポストインしながら確認しています。
- ・下校時、1人にしない約束がありますが、親などが途中で車で下校されると、1人になる児童が多い。

5) 社会教育施設の整備

- ・断層観察館、さくら資料館だけでなく公民館もだが、老朽化が進み、毎年修繕が必要な個所が出てくる。しかし、限られた予算内ではすべてを速やかに修繕することは不可能。トイレも同じ。思い切った見直しが迫られていると思います。

施策 26 「チーム学校」の推進と教職員の勤務環境の向上

1) 教職員の適正な勤務時間と業務量の管理

- ・勤務時間の把握は確実に行われていると考えます。教育活動の不易と流行のバランスを踏まえた働

き方改革を推進していきたいです。

- ・学校が担う、期待される仕事量が減らない限り結局は持ち帰り残業になるとは思いますが、意識を変えるためにも、思い切った改革の一つとして是認されます。一部の「責任感と善意」ある人に仕事が集まらないよう配慮が必要だと思います。
- ・スクールサポートスタッフの存在は、たいへんありがたいです。おかげで、教職員が本分の仕事に専念できる時間が着実に増えてきています。スクールサポートスタッフの拡充を検討いただけるとありがたいです。
- ・地域の方や保護者の力をお借りできる場（プールの見守りなど）を考えて、お願いしています。
- ・消毒作業などのボランティアなども含めて、地域の方の協力がすばらしい。
- ・簡単な事務処理、印刷など、様々な場で助けていただいております。
- ・A評価となるぐらいの実効性があったのなら是非これからも継続されることを願います。
- ・ストレスチェックのシステムを導入いただければ、教職員が「自分を知る」ことにも役立っています。

2) 業務の軽減と一元化を図る校務支援システム

- ・校務支援システムを有効に活用しています。
- ・教師用のタブレットが、担任分しかなく、できれば全教員がタブレットをもつことで、効率よく子供の授業に生かせる。
- ・幼稚園の教育系ネットワークへの接続が可能になって、業務の効率化が図られつつあります。もっと活用できるとよいと思います。

3) 中学校部活動における社会人指導者・休養日の設定

- ・全国的に中学校での部活指導が教員のオーバーワークの大きな原因となっている。社会人指導者の確保に努めておられていること、今後もさらに努力していただきたい。

4) 勤務時間を自己管理する働き方の徹底

- ・「ノー残業」の日は実際にあり得るのか。家庭への持ち帰りに対応する教員も多いと思う。8のつく日、ノー残業デーもよいが、早く帰宅できる常態を作り出すことは重要。勤務時間内の業務をできる限り精選し、少なくして、週の半分以上「ノー残業」とできないか。
- ・休みをとれない教員にとって大変ありがたいです。市教委で文書を作っているのだから、保護者の理解も深まっていると思います。
- ・ノー残業デーの意識はあるものの、当日になって残業してしまう職員もいて、園全体の「早く帰る日」の雰囲気作りが必要だと思っています。
- ・そもそも必要な「行事」なら開かねばならないし、なくても済む行事ならはじめからなしにしてもよい、と思います。何事も「よりよい教育、力を向上」させるために「研修、研究会、講演会」などが催されるわけですが、ある程度の線を引かないと結局は、時期限定の「ない日」の設定ということになるのでは？
- ・そもそも残業しない日を8のつく日などと限定すること自体が矛盾しているのでは？それぐらいに他律的にしないと残業しない日が作れないとしたら形だけに終わるのでは？

方針3 ふるさとへの愛着と誇り

施策27 「ふるさと本巣市」を学ぶ教育の推進

1) 「ふるさと本巣市」について学びと発信

- ・本市の自然遺産・歴史遺産・伝統工芸・伝統文化などについて、総合的な学習の時間の探究学習として活用できるよう、市内の先生たちでチームを作り、学習内容や学習方法などをわかりやすくまとめた学習ガイドのような冊子を作り、先生たちに提供したらどうだろうか。
- ・本市の各地域に、素晴らしい財産＝学習環境があります。これらの財産と、学校の総合的な学習

の時間を有機的に結び付けていきたいです。そして、本巢・真正・糸貫・根尾の子どもたちが、それら4地域＝本巢市全体をふるさとと思えるようにしたいです。

- ・本巢市の、そして住んでいる地域の歴史や文化を知り、体験する機会があることが大切です。子供の興味や関心は最初からあるわけではなく、機会を作ることによって湧き出てくる場合もあります。今後、「ふるさと本巢」に自分が関わっていこうと考える児童生徒を育てるようにしていきます。
- ・根尾学園、本巢小学校の取組の一部に関わらせていただいています。子供も先生も興味関心をもって熱心に学ぼうとしてみえます。児童生徒が伝統工芸、文化の担い手になるきっかけになれば幸いです。まずはこんな文化、伝統が伝えられていること、その価値について知るきっかけになれば幸いです。
- ・自信と誇りをもって、悩みながらも工夫しながら一生懸命取り組んで見える方の姿、話を聞くことはよい学習となります。
- ・生徒会サミットでは、SDGsの視点をもとにした交流がなされました。SDGsを踏まえた総合的な学習の時間の枠組みを考えてみたいです。
- ・総合的な学習の時間の付けたい力の一つとして伝える力があります。子供たちの力で発信できるようにしています。

2) 「ふるさと本巢市」の偉人の生き方の学び

- ・数学ワンダーランドができて、今年で5年目になるかと思いますが、教具が新しくなったり、レイアウトが変わっていたりしていることに喜びを感じます。教具もきれいに整頓されていることを見ると、利用者の方のマナーのよさも伺えます。
- ・実際に見学すると、子供たちの目が輝き、夢中で体験してました。高木博士の話も、興味深げに聞き、博士の書のすばらしさに感動していました。
- ・数学の理論的なことを目に見える形や触れることによって、体感できるということは算数・数学好きにする第一歩だと思います。高木貞治氏の業績については一般には理解できませんが、ワンダーランドの教具は大変優れていると思います。
- ・金原明善氏については万人の認める桁違いの偉人だと思います。宇野千代女史についてはどのように資料化されているのでしょうか？前田利行氏については？

3) 「ふるさと本巢市」の文化遺産からの学び

- ・いつ起きるかわからない大地震に備え、防災教育の重要性が高まっていると感じています。
- ・学校が積極的に本市の施設を活用することで、ふるさとへの愛着も育むことができると考えます。
- ・子供にとって分かりやすく解説していただきながら見学できました。根尾での研修がなくなっても市内の小中学生は、断層館を見学すべきです。
- ・根尾谷断層観察館での学習は素晴らしいとは思いますが、発災後生き抜く方法にや、家庭内では防災リーダーとして、あるいは避難所となるであろう学校における役割についても学ぶ場を地域の防災士などから実践的に学習できるとよい。
- ・分かりやすい解説と子供たちの体験もあり、充実した見学ができました。
- ・古墳についての何を学ぶか、当時の人々のくらしから何を学ぶか、古墳がたくさんある意味や地政学的な意味などについて深堀できるとよい。しかし、古墳文化に興味関心をもつ子が現れればよい。また現地でないと分からないこともある。時間と移動手段に課題があるだろうが。
- ・毎回更新されてはいるが、紹介されている文化財とそうでないものがあるし、名称の不統一、整合性に問題あり。合併協議会での申し送りで決まっているのであろうが、合併して20年にもなる。もう一度見直しが必要。果たして市民の活用に耐えうるものだろうか。限られた予算、紙面での限界もあるだろうが。
- ・マップだけでなく本巢市についてもっと知りたいと思う人が多くいるのでは？自分の居住地域は

もちろんだが他の地域についての歴史や文化について網羅した簡単な説明書的なものできないものか。

施策 28 社会参画力の育成・ボランティア教育の推進

1) 「MSJ」「MSキッズ」活動の推進

- ・MSJやMSキッズの活動も、子どもが「物事を自分事として捉え」「主体的に考え行動する」力を育むチャンスであると考えます。
- ・挨拶運動は地域の方も入りながら小中で継続してできました。
- ・児童会サミットでは、地域の方の気持ちを考えるきっかけとなり、気持ちを込めた挨拶につながりました。

2) 地域行事へのボランティア参加

- ・ボランティア手帳に押印することも意味があると思うが、ボランティアへの参加状況(市主催のその他のボランティアも含め)がその後のキャリアに生かされていくようにできないものか。社会活動のリーダーとして市が育成していくなど。
- ・キャリア教育の観点からもよい取り組みだと思います。
- ・ボランティア手帳はすでに発行済であるはず。ボランティア手帳の再考・見直しを。
- ・新成人が自ら運営スタッフとして活躍できる場が設けられるのはとてもよいと思います。
- ・エコキャップ運動というのは、まだ有効な運動でしたか？
- ・活動の価値付けとは？
- ・ボランティア活動では、地域の大人の方が汗して子どもと一緒に取組まれる姿を、子ども（特に小学生）が見ることが、ボランティアの心を育むと考えます。
- ・中学生、小学生高学年では地域の一員として清掃活動などで役割を任せることにより自覚、充実感を味わえることになると思う。

施策 29 本巣市を担うリーダー育成の推進

1) 学校を中心としたリーダー育成

- ・会場校の児童生徒にとっても、自分の学校に誇りをもてるよい機会になります。大切なのは、「次に何ができるか」を考えることです。
- ・児童会サミット、生徒会サミットで、他校の実践を交流することで、学校に戻ってからの活動により変化が見られました。
- ・市長と市内小中学生の対話はとても良いと思う。そこで話し合われた内容を良いアイデア等は実現していくようにすると子どもたちの市政に対する関心は深まると思う。
- ・小中学生が市長さんと話すことができることは、なかなかないと思います。本巣市全体を見ていらっしゃる市長さんからお言葉をいただくことは、子どもたちの大きな励みになると考えます。

2) 市が主体となったリーダー育成

- ・特に広島研修を経験した中2以上の生徒たちにとっては、実際に戦場になった場所で学ぶことで、平和や自分たちの安心な生活をより強く誓う大きなチャンスになると考えます。
- ・ラジオ体操や地域のクリーン作戦などの場において中学生の活躍が表れていてよいと思います。

施策 30 青少年健全育成の充実

1) 青少年の健全育成に対する効果的な広報・啓発活動の推進

- ・合同開催には一つの柱が通っており、有意義な会になったと考えます。
- ・地域の方から「令和4年度のラジオ体操に可能な範囲で参加した」と聞きました。新型コロナの下

ではありましたが、地域の子どもを地域で育てるというお気持ちを感じました。

- ・中学校で司会進行をする中学生の指導をしていただいておりますが、中止になりました。
- ・ラジオ体操や地域の清掃活動は中学生が地域の大人と連携し、その役割を担う場として、とてもよい機会となっています。青少年育成推進委員さんはその架け橋としてよく努力されていると思います。
- ・家庭の日をもっと明確にすること。

2) 子供が行事等の運営に参画し、マナーや社会のルールを学ぶことができるような地域づくりの推進

- ・ジュニアリーダーもまた、子どもが校外で活躍でき、新たな居場所にもなり得る活動であることから、年15回の実施は大きな意味があったと考えます。
- ・研修会にほとんど参加がない。
- ・現在子ども会組織が少しずつ少なくなっています。親の協力がありません。
- ・市連Pと単Pとの間で軋轢が生じてないか不安。根尾・外山のような小規模のPTAでなおかつ地理的に離れていると、役員選出や会合出席などにおいて、困難さがある。かといって平等性の観点からは四地域が等しくローテーションすべきだとも思うが、いずれにしても過度の役員負担にならないように配慮したい。
- ・新成人自らが運営委員として参画されているのはとてもよいことだと思います。無理な演出はしなくても、しかし、アイデアはできるだけ尊重して任せていかれるとよいと思います。

3) 海外に視野を広げる機会の設定と、青少年の豊かな国際感覚の育成（中止）

施策 31 歴史・文化活動の推進

1) 伝統文化の継承と継承者の育成

- ・文化財マップの英訳も大切であるが、主要文化財についてもう少し詳しくした手軽な解説書のようなものを作成する必要があるのでは。マップの説明では簡単すぎる。
- ・従前の文化財マップだけでは細かいところを訪ねることは難しい。観光協会発行の「アルキメデル」はそれを補填するものと自負しています。文化財は大事に保存していくというだけでなく、世間に広くその存在と価値を公表し、見に来てもらうという観光的な意味も含むと思う。観光資源でもある。

2) 各保存会、文化協会、文化団体、サークル等の活動の支援

- ・文化財マップの英訳も大切であるが、主要文化財についてもう少し詳しくした手軽な解説書のようなものを作成する必要があるのでは。マップの説明では簡単すぎる。

3) 先人・偉人の調査・研究や歴史的文化資料の整備、保護・保存及び有効活用

- ・現地視察は大変勉強になりました。
- ・広いエリアになるので今後の管理、維持も大変かと思いますが、今後さらなる整備に期待しています。古墳という文化的価値だけでなく、貴重な里山としての憩いの場にもなるよう総合的に利用できる古墳公園になっていくことを期待します。
- ・根尾にも「能狂言」「大須の踊り」「根尾踊り」「雨乞い踊り」などありますが、貴重な資料だと言えます。

4) 文化的な学習機会の充実と語りべボランティア等、人材の育成、地域文化の伝承活動の推進

- ・4年生で高木博士のことを知り、5年生でウォークラリー、という本巣市内小学校の形を大切にしていきたいです。
- ・算数ウォークラリーの企画そのものはよいと思いますが、交通安全面その他、夏季の暑い時であれば熱中症などのリスクもあるので時期や場所について検討されてもよいのでは。
- ・文化財を保全していくということは大切なことだと思います。ただ、中にはその価値を見直す必要

があるものも含まれていると思います。合併20年を機会に思い切った見直しを図るべきだと思います。

- ・初鹿谷の菊花石の地域指定については、どこから指定地域なのか明らかに指定して欲しいという声もある一方、現実的にはあいまいにしておいた方がいい、という側面もあります。
- ・根尾谷断層そのものだけでなく館内の展示物についても最新の知見に基づいたものに更新していく必要があると思います。その場合の指導助言をいただける大学の先生の選定、協力関係も構築していただきたい。
- ・何事も興味関心を持たせる企画はよいと思います。ただ昇段制度まで設ける必要があるのか、子供たちの要望に即して検討していきたい。算数数学についても検定制度、スポーツ関係についてもとなると、運営も煩雑になるし、それだけ予算や担当者の労力も大きくなる。
- ・出展者の励みになってよいと思います。作品の一部を常に鑑賞できるようなギャラリーができるとよいと思います。(例 本巢庁舎の今後の利用方法として、あるいは山門ギャラリー等)